

塩田庁舎等利活用基本構想（案）

令和 5 年 12 月
嬉野市

目次

第1章	はじめに.....	1
1.	基本構想の目的と経緯.....	1
2.	塩田庁舎等利活用基本構想の位置づけ.....	1
3.	上位関連計画.....	3
4.	対象施設及び近隣施設の設置状況.....	7
第2章	関係者意見の把握.....	9
1.	市民及び中学生アンケート.....	10
2.	市民ワークショップ.....	23
3.	市民アンケート及び市民ワークショップの分析.....	31
第3章	基本構想.....	34
1.	施設整備にあたっての基本的な考え方.....	34
2.	基本理念.....	35
3.	活用の基本方針.....	36
4.	施設の新たな役割.....	37
5.	導入機能イメージ.....	38
6.	基本計画に向けて.....	38

巻末：資料編

1. 委員会設置条例
2. 塩田庁舎等利活用検討委員会検討内容
3. 庁舎等利活用参考事例

第1章 はじめに

第1章 はじめに

1. 基本構想の目的と経緯

嬉野市（以下、「本市」といいます。）は、平成 18（2006）年 1 月 1 日、藤津郡塩田町と藤津郡嬉野町の 2 町が合併し、佐賀県内 9 つ目の市として誕生しました。

市庁舎は、市民の利便性を考慮し、各庁舎の部・課編成などの機構改革等も行いながら、各々の旧役場庁舎を市庁舎として活用する「2 庁舎方式」により行政運営を図ってきました。

本市では、令和元年度から 9 回にわたって実施された「嬉野市庁舎のあり方検討委員会」によって、嬉野地区での新庁舎整備の方向性が検討され、**行政のスリム化及び災害拠点としての脆弱性解消のため**、行政運営体制は「2 庁舎体制から行政機能を 1 か所に集約する 1 庁舎体制へ移行することが望ましい。」、「新庁舎整備は、現嬉野庁舎用地を含むその周辺公有地を活用する」とする庁舎の方針が示されました。

この方針が示されたこととともない、塩田地区の庁舎利用に対する利便性や、地域活力の低下などの社会的影響などを懸念する声もありました。

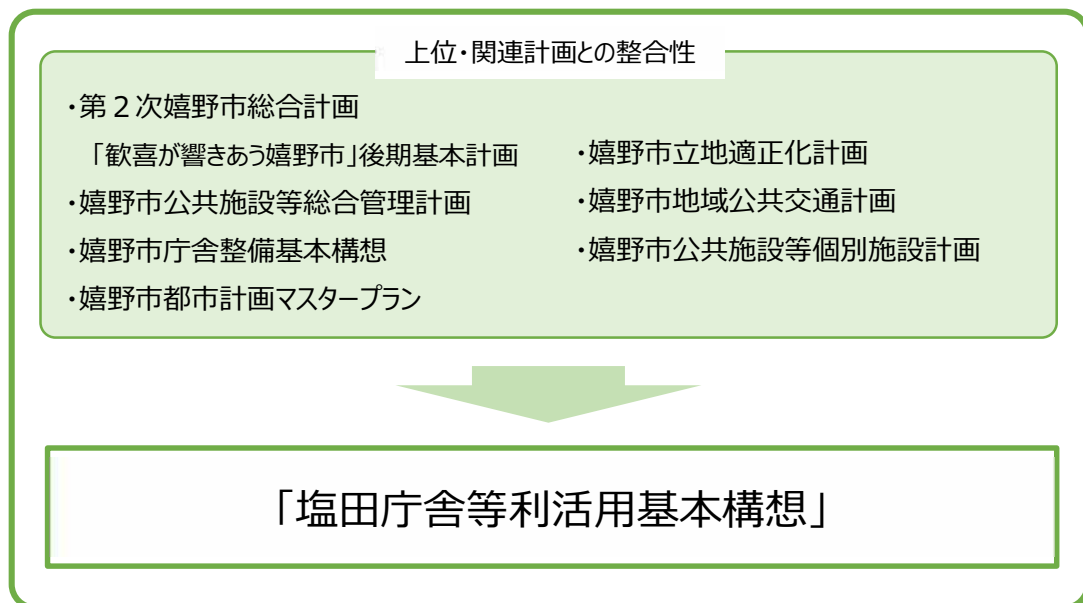
そうした中、塩田庁舎及び周辺公共施設（以下、「塩田庁舎等」といいます。）の利活用を行い、行政サービスをより便利にしていくとともに、地域の活性化につながるための各施設の役割について、行政と住民が一体となって検討し、「塩田庁舎等利活用基本構想」（以下、「本基本構想」といいます。）を策定することとなりました。

本基本構想は、今後、本市や住民が塩田庁舎等を塩田地区の中核拠点として利活用に取り組み、将来に向けて夢のある地域づくりのビジョンと、ビジョンを具体化するための理念・方針等を示すことを目的としています。

2. 塩田庁舎等利活用基本構想の位置づけ

本基本構想の策定にあたっては、本市上位・関連計画との整合を図る必要があります。

1) 関連する上位・関連計画



2) 塩田庁舎等利活用基本構想の位置づけ

本基本構想は、「基本計画」、「基本設計」及び「実施設計」へとつなげる最も基本となるもので、塩田庁舎等利活用における理念・方針等を定義するものです。

【令和5年度】(本書)

基本構想	<p>塩田庁舎等利活用について、その理念・方針等の定義</p> <p>【決定すべきこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 塩田庁舎等の利活用のコンセプト(理念・方針) 2) 塩田庁舎等の必要となる機能 3) 塩田庁舎等周辺地区の利活用イメージ
基本計画	<p>基本構想に基づいた、塩田庁舎等利活用における、施設ごとの機能・配置計画</p> <p>【決定すべきこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本構想における方針の具体化 2) 塩田庁舎等利活用における、諸室・設備の概要 3) 運営方針 4) 新庁舎と連携した提供サービスの確認
基本設計	<p>基本計画に基づいて、塩田庁舎等利活用に向けての施設構成、配置計画、諸室機能、運営方針及び概算事業費用の検討</p> <p>【決定すべきこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 塩田庁舎等利活用における、諸室・設備の規模・仕様 2) 諸室の間取り 3) イメージパースの作成 4) 工事発注方法・管理主体・運営方法 5) 概算工事費用
実施設計	<p>基本設計に基づいて、塩田庁舎等利活用施設の設計、工事数量算出及び実施事業費用の算出</p> <p>【決定すべきこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種設計図面(建築・設備) 2) 工事数量・事業費用 3) その他

3. 上位・関連計画

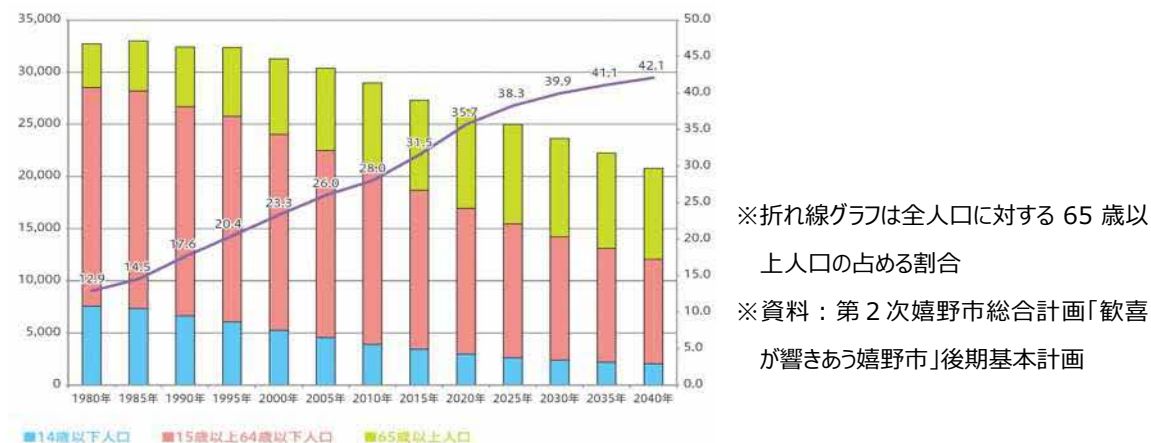
1) 第2次嬉野市総合計画「歓喜が響きあう嬉野市」後期基本計画

【計画期間 令和4（2022）年～令和7（2025）年】

【人口ビジョン】

国勢調査の結果によると、本市の人口は1985年（昭和60年）の調査をピークに減少が続いています。全人口に占める高齢者の割合も増加しており、1980年（昭和55年）に約13%であった65歳以上の人口は、2015年（平成27年）には30%を超えるまでに増加しています。

また、「国立社会保障・人口問題研究所」の人口推計によれば、今後更に人口の減少傾向が続く見通しです。2015年（平成27年）に約27,300人だった本市の人口は、2040年には約20,800人にまで減少すると予測されています。人口減少とともに高齢化の更なる進展も見込まれ、2040年の65歳以上の人口の割合は40%を超えるものと予測されています。



人口ビジョンでは、2025年に定住人口25,200人を目指しています。

出生率の上昇や転出抑制等に取り組み、2025年に25,200人以上を維持することを目標としていますが、現状よりも人口減少が進むことは免れない状況です。

【まちづくりの基本方針】

本市では、以下の総合的かつ計画的に取り組む6つの分野別政策として基本方針を掲げています。

【まちづくりの基本方針】

分野別政策	方針
福祉・健康づくり	ともに支え、笑顔あふれるまちづくり
自然・都市・生活環境	自然と調和、快適住生活のまちづくり
安全・安心	助け合う、安全・安心のまちづくり
産業・経済	進化と創造、活力みなぎるまちづくり
教育・文化・スポーツ	しなやかでたくましい、「人」育むまちづくり
まちづくり体制	みんなで創る、自発のまちづくり

2) 嬉野市都市計画マスタープラン（平成 24 年（2012）策定）

【計画期間 平成 24 年（2012）～令和 20 年（2030）】

嬉野市都市計画マスタープランの地域別構想には、塩田街道地域の街づくりの方針をとりまとめています。

塩田街道地域のまちづくり目標

【地域の将来像】



【地域づくりの目標】

① 魅力ある地域文化を磨き発信するまちづくり

歴史的町並みと地域の産業文化、並びに田園と背後の山々で構成された自然と調和したパノラマの風景を活かし、北部九州観光における来訪目的となる文化創造・発信の拠点を目指します。

- 長崎街道の歴史的町並みの保全・再生・創生による価値創造型の地域づくり
- 地域資源・特性を活かした地元就業型の自立型経済システムづくり

② 歴史をめぐり、文化とふれ合えるまちづくり

嬉野温泉と連携し、窯業場や造り酒屋など地域の文化を開放し、地域の生活様式や風土を体感できる観光地を目指します。

- 新たな観光需要の取り込みに向けた体験型観光地づくり
- 訪れる人が安心して滞在・観光できる都市基盤・環境の整備

③ 独自性のある文化的な生活環境のまちづくり

魅力的なまちの雰囲気と、地域のアイデンティティ、地域資源を活かし、地域住民が主体となって、その歴史・文化を守り育てていく生活の場を目指します。

- 地域の生活・習慣・行事などの生活文化を大切に「他とは違一」拠点地区づくり
- 地域の生活文化の背景となる自然との共生・共存に向けた生活維持の基盤づくり

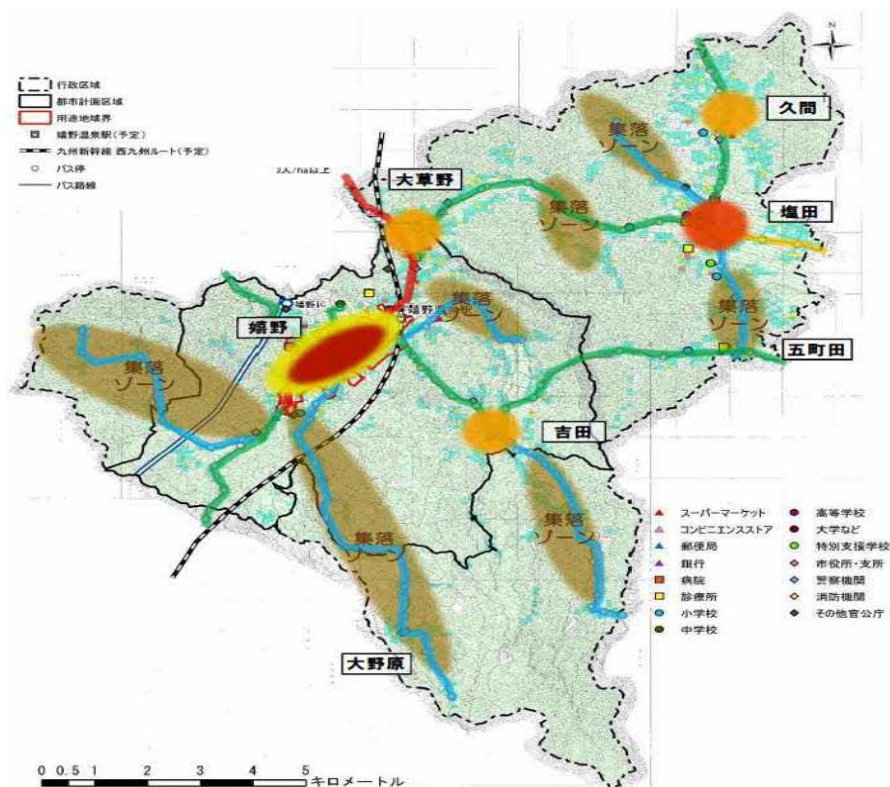
本地域は国道 498 号を軸として開発や施設立地が進み、塩田津伝建地区など長崎街道の歴史・文化資源が点在する状況を踏まえ、地域自らが主体となって旧街道の記憶（地域性）を活かしながら生活文化を育て・発信するまちづくりを推進します。

3) 嬉野市立地適正化計画【平成 30（2018）年公表】

「嬉野市立地適正化計画」とは、本市の特性に応じた持続可能な都市構造の構築及び、誰もが安心して暮らせる快適な生活環境の実現に向けて、「居住誘導区域」や「都市機能誘導区域」等の設定、「公共交通ネットワーク」との連携によるまちづくりの方針等を示すものとして、平成 30 年 3 月に策定された計画です。

策定にあたっては、「嬉野市総合計画後期基本計画」及び「嬉野市都市計画マスタープラン」などの整合が図られています。

	特性	概ねの区域	凡例
都市中核拠点	<ul style="list-style-type: none"> 市役所等の公共施設が立地 医療・福祉・商業等の生活サービス施設が集積 市内の各地域から公共交通を用いてアクセスしやすい 人口が高密度で集積 	<ul style="list-style-type: none"> 用途地域内 (嬉野バスセンター、嬉野温泉駅周辺等) 	
居住誘導ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 都市中核拠点周辺の人口が集積している区域 	<ul style="list-style-type: none"> 用途地域 	
地域中核拠点	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設が立地 医療・福祉・商業等の生活サービス施設が立地 市内の各地域から公共交通を用いてアクセスしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 塩田庁舎周辺 	
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 生活サービス施設が一定程度立地 人口が一定程度集積 民間の公共交通において拠点間を連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 久間 大草野 吉田 	
集落ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 人口密度の低い集落 廃止代替バス路線や乗合いタクシーで各拠点を連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 各集落 	
公共交通軸	<ul style="list-style-type: none"> 現行の公共バス等の運行経路 		



4) 嬉野市地域公共交通計画本計画【令和4（2022）年度から令和8（2026）年度】

地域が目指す将来像を実現していくための公共交通のあり方を検討し、将来にわたって市民の生活を支える“持続可能な公共交通体系”の構築に向けたマスタープランとして、行政・交通事業者や公共交通利用者をはじめ、地域住民や活動団体、各種施設などの関係者が一丸となって、効果的・効率的な施策展開を推進していくため、「嬉野市地域公共交通計画」が策定されています。

塩田地区の交通拠点は「施策の背景・必要性」から整備方針が出されていますが、敷地全体を一体的に検討する必要があることから、整備スケジュールは現時点で未定とされています。

塩田地区では、塩田庁舎周辺が「交通結節点」となっていますが、路線バスのバス停は、乗合タクシーの停留所も含めると4か所に分散しているため、路線バス同士や路線バスと乗合タクシーの乗り継ぎが不便な状況であることや、鹿島方面のバス停は塩田庁舎からやや距離があること、嬉野方面のバス停は交差点内に設置される特異な状況になっていることが問題とされています。

その上で、塩田庁舎周辺のバス停・停留所を再編し、塩田庁舎エリアの敷地内への乗り入れなども視野に、乗降場所の統一による分かりやすさや乗り継ぎしやすさの向上を図ることとされています。



図 86 塩田庁舎エリア周辺のバス停等の現状

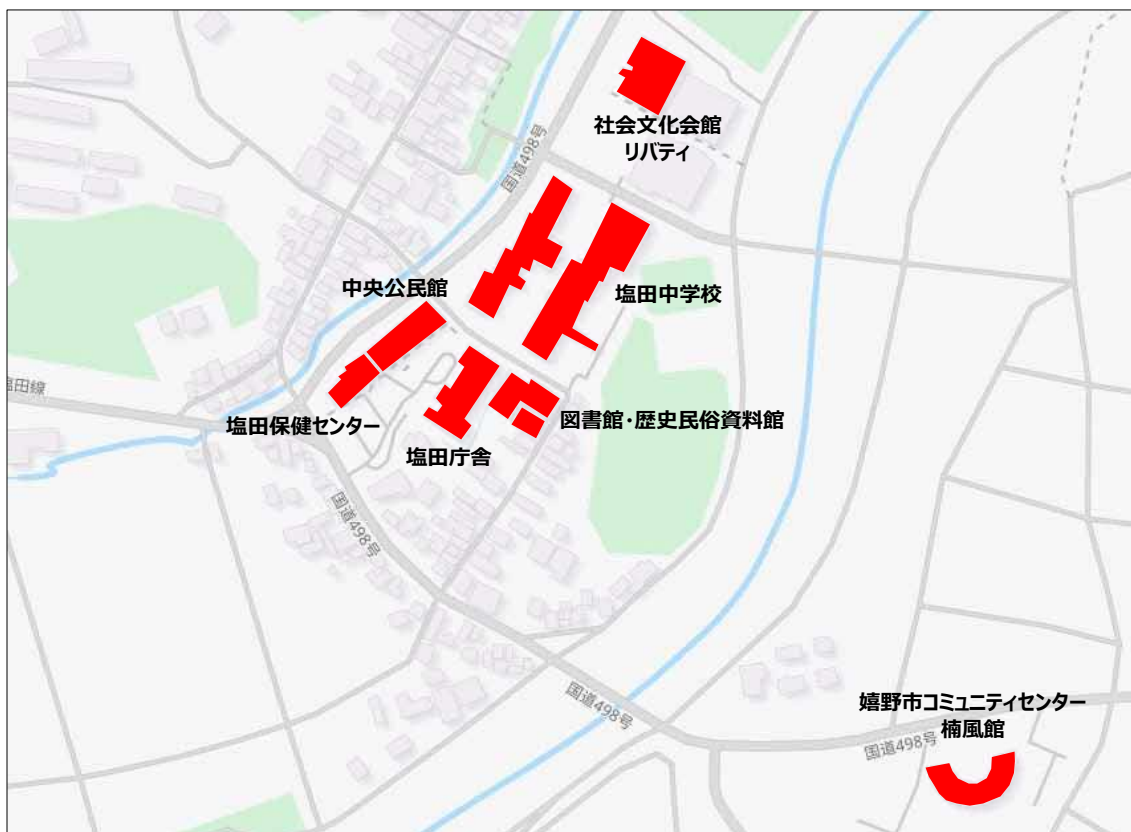
@OpenStreetMap contributors

- 〔検討・解決すべき課題、留意すべき事項など〕
- ✓敷地内には耐震性が不十分な建物などもあるため、その解体・撤去や、地下駐車場の取り扱いなども踏まえて敷地全体の使い方を検討する必要があります。
 - ✓また、塩田庁舎エリアの現在の出入口は信号交差点に近接していることから、交通処理などもあわせて検討する必要があります。
 - ※塩田地区における交通拠点の整備については、塩田庁舎エリア敷地全体を一体的に検討していく必要があり、長期的・大規模な取り組みになることが想定されます。このため、実施スケジュール等については現時点では未定とします。

4. 対象施設及び近隣施設の設置状況

対象施設となる塩田庁舎ですが、敷地内には庁舎のほか、中央公民館、保健センターが立地しており、また、敷地の地下には駐車場もあります。

この庁舎周辺の公共施設として、近隣には図書館及び歴史民俗資料館、さらに広げると塩田中学校やリバティ、楠風館などが立地しています。



@OpenStreetMap contributors

施設名	建築年・築年数	延床面積	備考
塩田庁舎	平成 5 年(1993 年)築 30 年	1,263 ㎡	
中央公民館	昭和 53 年(1978 年)築 45 年	2,026 ㎡	旧耐震設計
社会文化会館「リバティ」	平成 26 年(2014 年)築 9 年	4,684 ㎡	
図書館・歴史民俗資料館	昭和 61 年(1986 年)築 37 年	1,103 ㎡	
塩田保健センター	平成 10 年(1998 年)築 25 年	1,263 ㎡	
塩田中学校	平成 26 年(2014 年)築 9 年	8,454 ㎡	校舎・体育館・武道場 部室
嬉野市コミュニティセンター (楠風館)	平成 16 年(2004 年)築 19 年	1,241 ㎡	

1) 塩田庁舎及び周辺公共施設の現状と課題

① 塩田庁舎

塩田庁舎に、市長室、議会等の主たる部門を設置し、他部署は2庁舎に振分けて運営しています。総務・防災関連、市民窓口、福祉関連の一部など、市民窓口サービス部門は両庁舎に設置しています。

施設の状態としては、屋上・外部においてはタイルのクラック、バルコニーの苔等以外に目立った劣化は見られませんが、地下駐車場の天井の爆裂（補修あり）やエフロレッセンス、アスファルト路面の段差、亀裂等が目立ちます。内部では、内壁のクラック等は見られますが、大きな問題はありません。



② 中央公民館・老人福祉センター

中央公民館は、毎日のように利用されている利用度の高い施設です。老人福祉センターでは、デイサービスが運営されています。

施設の状態としては、屋上部は特に問題はありませんが、外壁においてクラックや塗装の剥離、シーリングの劣化等が見られます。内部においても、天井の水染みや内壁のクラック、クロス劣化など、経年による老朽化が散見されます。

旧耐震の設計による建物のため、耐震性に懸念があります。

また、避難所に指定されています。



③ 塩田保健センター

地域住民の総合的な健康づくり対策を推進し、健康増進及び疾病予防を図ることを目的として設置されており、保健指導及び相談、栄養指導及び相談、集団検診、母子の相談や健診などを実施しています。施設の状態としては大きな問題はありません。

設置目的に特化して建てられているため、施設の機能移転などは困難と考えられます。

また、避難所に指定されています。



④ 図書館・歴史民俗資料館

図書館では、図書室の利用のほか、読み聞かせなどの取り組みが行われています。また図書館2階にある学習室の利用率は高い状況です。

歴史民俗資料館は、塩田の文化や産業の歴史のほか、石工の歴史や塩田津の建造物の解説など貴重な遺産を展示・収蔵しています。

施設の状態としては、外部では、外壁のひび割れやシーリングの劣化が見られ、内部においても、壁のひび割れが散見されます。

歴史民俗資料館は、設置目的に特化して建てられているため、機能移転などは困難と考えられます。



⑤ 社会文化会館「リバティ」

社会文化会館「リバティ」は、スポーツ・文化活動を通じた市内外の交流の場として、地域に開かれた市民の誰もが利用しやすい施設として毎日のように利用されており、本市の市民文化施設として中心となる施設となっています。

施設の状態としては築年数が9年程度と新しく、特に大きな問題も見られません。



⑥ 塩田中学校

塩田中学校は、平成26年に新築された2階建ての校舎です。令和5年度は271人の生徒が在学しています。

本施設は、大雨時の浸水の際の水害対策を重視して設計されており、全体が上げ床の高床構造となっており、緊急時の避難経路に対応しているほか、中庭は大雨の際に遊水地の役割を果たしています。

施設の状態としては、リバティ同様に築年数が9年程度と新しく、特に大きな問題も見られません。



⑦ 嬉野市コミュニティセンター「楠風館」

楠風館では、会議、研修をはじめ、仲間どうしの話し合い、趣味のサークル活動などに利用されています。また、風呂のほか、トレーニングルームも設置しており、日頃の健康づくりの場としても利用されています。

施設の状態としては、外部では大きな問題は見られませんが、内部では天井の水染みや内壁のクラックなどの劣化が見られます。



第2章 関係者意見の把握

第2章 関係者意見の把握

1. 市民及び中学生アンケート

1) 市民アンケート

市民アンケートは、「塩田庁舎及び周辺公共施設との関わり」及び「塩田庁舎周辺の将来像」並びに「塩田庁舎の利活用」に関する意見等を基本構想に活用することを目的として実施しました。

アンケートの対象は塩田町にお住まいの全世帯とし、できるだけ多くの方の考えを反映できるように、世帯主及び世帯主以外で同居される18歳以上の方に回答していただけるように作成しました。

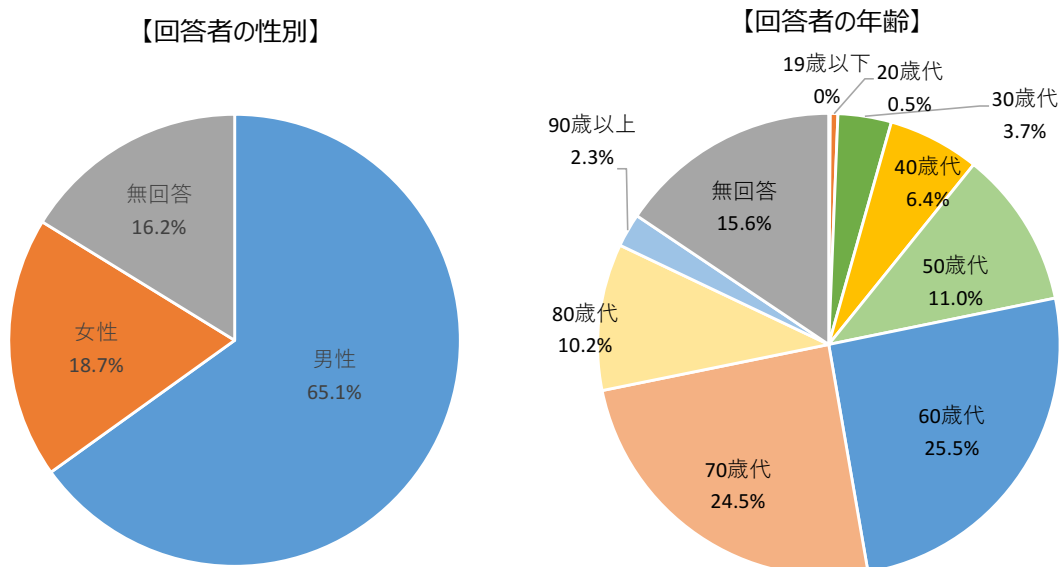
① 調査方法

- 調査対象：塩田地区4コミュニティに居住する3,289世帯
- 調査期間：令和5年4月14日～令和5年5月12日
- 回収結果

コミュニティ	配布数	回収数	回収率
五町田	973	223	22.9%
久間	1,099	253	23.0%
塩田	851	229	26.9%
大草野	333	65	19.5%
その他	33	—	—
無回答	—	167	—
計	3,289	937	28.5%

② 回答者の性別及び年齢

回答者の性別については「男性」が全体の6割半ば、「女性」が2割弱となっています。また、回答者の年齢別では60歳以上が6割以上を占め、内訳は「60歳代」と「70歳代」がほぼ同じで、合わせて全体の約半数を占めています。



③ 設問の構成

アンケートで調査した設問は、塩田庁舎及び周辺施設をどの程度利用しているか、また、塩田庁舎周辺で必要と感じている機能などの今後のあり方や施設の活用方法などについてお聞きしました。

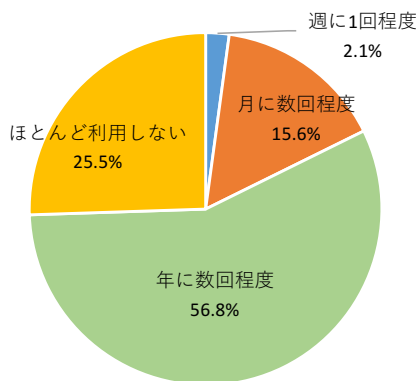
【市民アンケートの設問構成】	
(ア) 塩田庁舎の利用状況	(ク) 塩田庁舎周辺の伝統・文化・芸術機能
(イ) 図書館の利用状況	(ケ) 塩田庁舎周辺の出会い・交流機能
(ウ) 歴史民俗資料館の利用状況	(コ) 塩田庁舎周辺の地域活性機能
(エ) 塩田公民館の利用状況	(サ) 塩田庁舎周辺の健康・子育て機能
(オ) 保健センターの利用状況	(シ) 塩田庁舎周辺の風水害対策
(カ) 交通手段	(ス) 塩田庁舎の利活用
(キ) 塩田庁舎周辺の将来像	(セ) 塩田庁舎の具体的な活用方法

④ 調査結果の概要

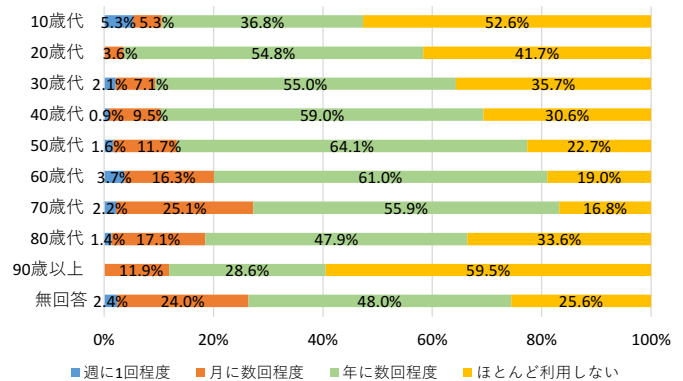
(ア) 塩田庁舎の利用状況

「月数回」「年数回」を含めると、30～80代が6割を超えて利用しています。庁舎に行く目的は、「証明書」、「各種申請」、「相談窓口」が多く、一方で自由意見は、「サービス時間の延長」や「土日祝祭日の開庁」を望む意見が多くみられます。

【塩田庁舎の利用状況】

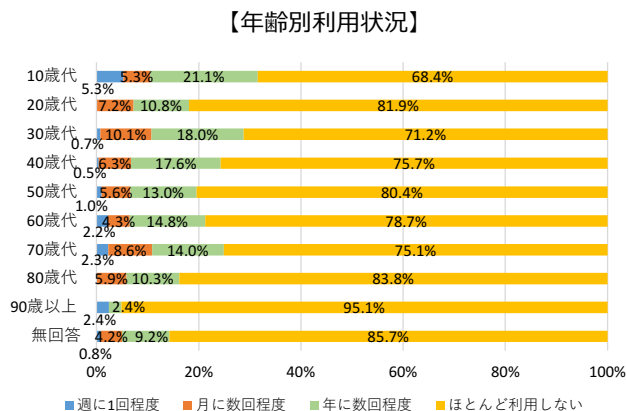
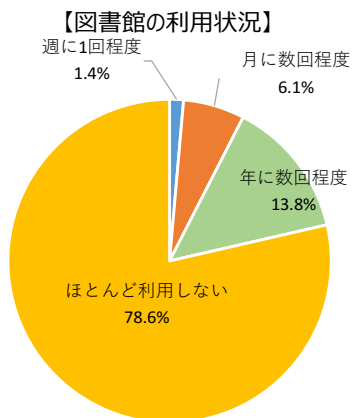


【年齢別利用状況】



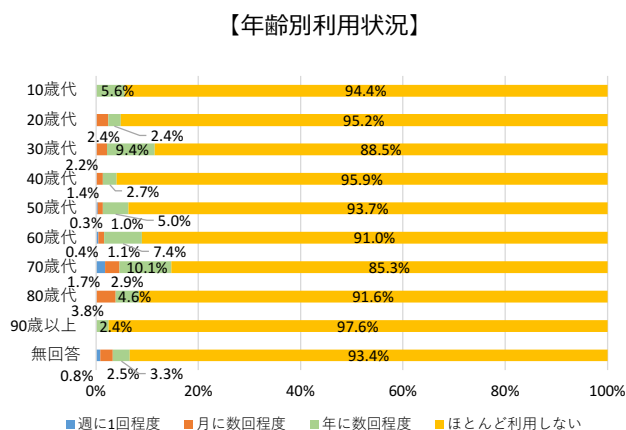
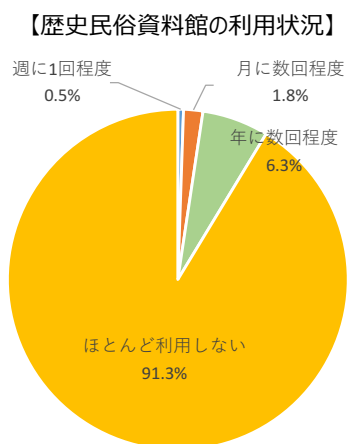
(イ) 図書館の利用状況

「年数回」を含め、回答者の約2割が図書館を利用していますが、その中で10代の利用率が最も高くなっています。自由意見では、利便性や快適性に関する意見が多くみられます。



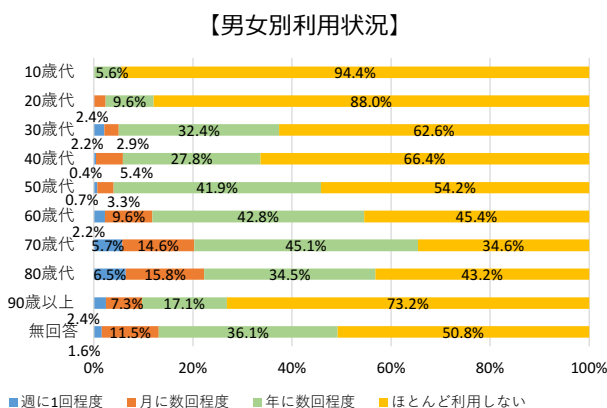
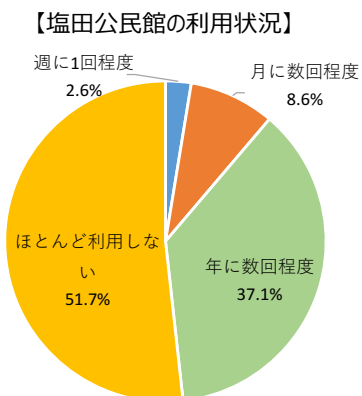
(ウ) 歴史民族資料館の利用状況

約9割が「ほとんど利用しない」と回答しており、他の施設に比べて利用率は低い結果となっています。自由意見では、展示スペースの拡大や照明設備の改善等に関する意見があります。



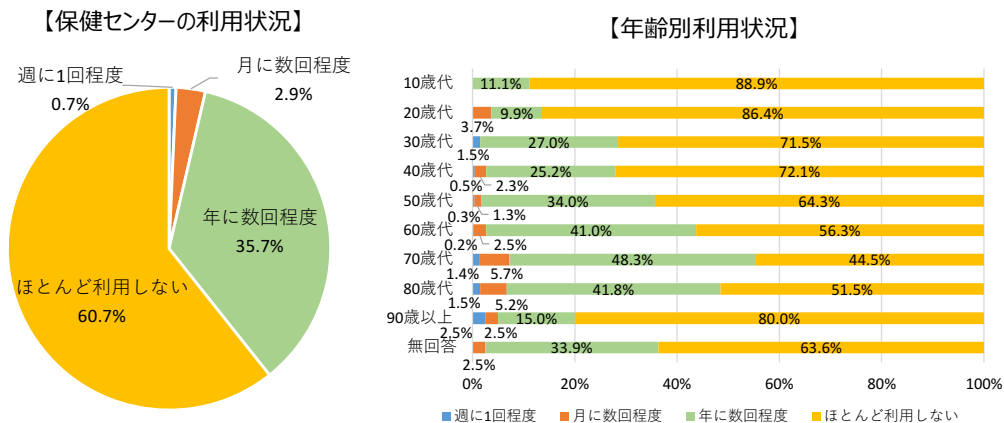
(エ) 塩田公民館の利用状況

さまざまな教室、サークル等の参加や福祉サービス等で利用する年代の利用率が高く、年齢層が高い世代ほど月に数回以上は利用しています。自由意見では、老朽化等による設備の改善等に関する意見が多くみられます。



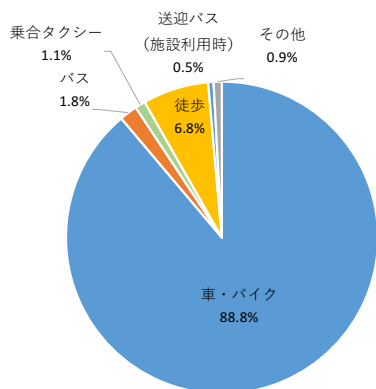
(オ) 保健センターの利用状況

年齢別で利用率が異なっており、年齢が高くなるに連れて利用度が上がっています。自由意見では、体力づくりに関する運動の指導やオープンスペースの提供サービス等による意見があります。



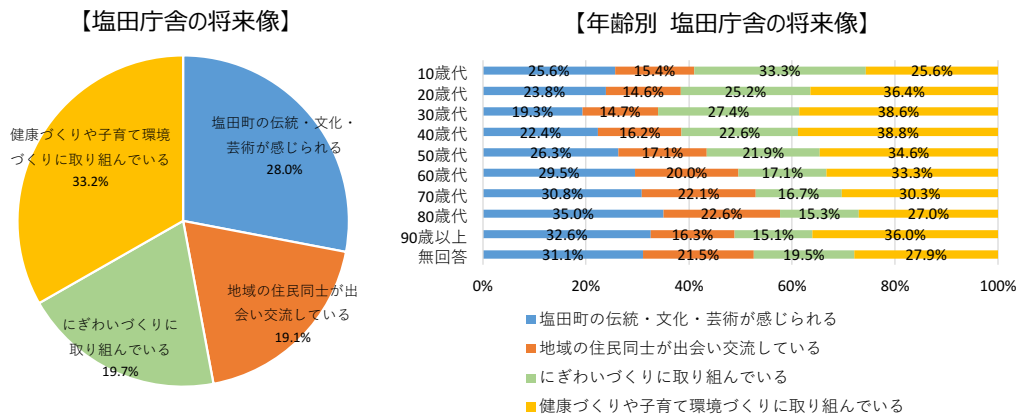
(カ) 交通手段

庁舎及び周辺公共施設を利用する際は約9割の回答者が主に車やバイクによる交通手段で利用されています。



(キ) 塩田庁舎周辺の将来像

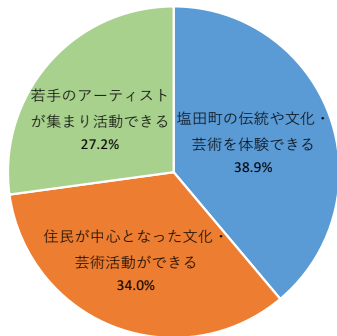
回答者の年齢を問わず「健康づくり・子育て環境づくり」、年齢が若い層は「にぎわいづくり」、年齢が高い層は「伝統・文化・芸術」が重要と考えられています。自由意見では、交流に関する意見や文化に関する意見が多くなっています。



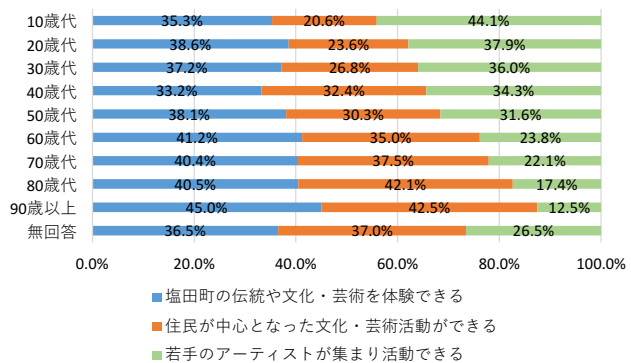
(ク) 塩田庁舎周辺の伝統・文化・芸術機能

回答者の年齢を問わず「塩田町の伝統や文化・芸術を体験」、年齢が若い層は「若手アーティストが集まり活動」、年齢が高い層は「住民が中心となった文化・芸術活動」が必要と考えられています。

【塩田庁舎周辺の伝統・文化・芸術機能】



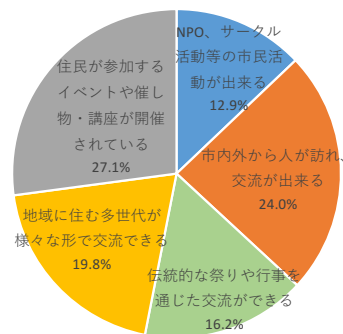
【年齢別 伝統・文化・芸術機能】



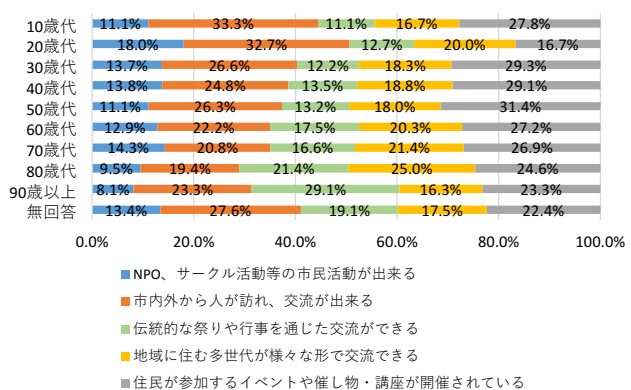
(ケ) 塩田庁舎周辺の出会い・交流機能

10～20代は「市内外から人が訪れ、交流」、30～50代は「住民が参加するイベントや催し物・講座が開催」、年齢が高い層は「伝統的な祭りや行事を通じた交流」が必要と考えられています。自由意見では、婚活や食に関するイベントに関する意見が多くなっています。

【塩田庁舎周辺の出会い・交流機能】



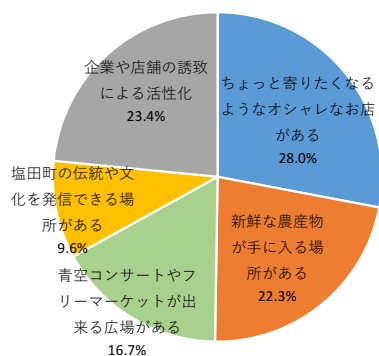
【年齢別 出会い・交流機能】



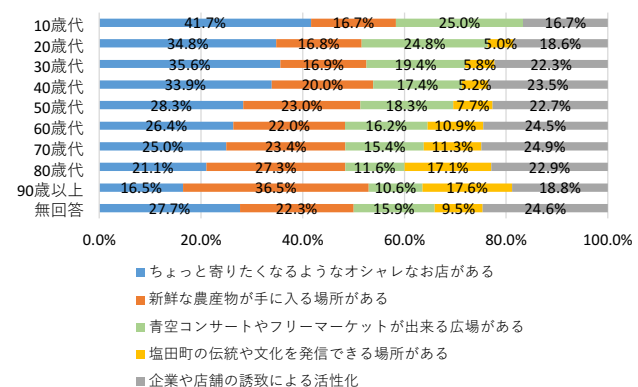
(コ) 塩田庁舎の地域活性機能

年齢が若い層は「ちょっと寄りたくなるようなオシャレなお店」・「青空コンサートやフリーマーケット」、年齢が高い層は「新鮮な農産物が手に入る場所」・「塩田町の伝統や文化を発信できる場所」が必要と考えられています。自由意見では、移動販売や施設の誘致に関する意見が多くなっています。

【塩田庁舎周辺の地域活性機能】

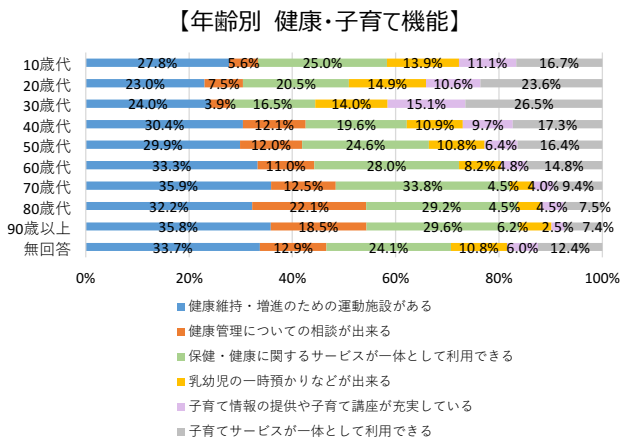
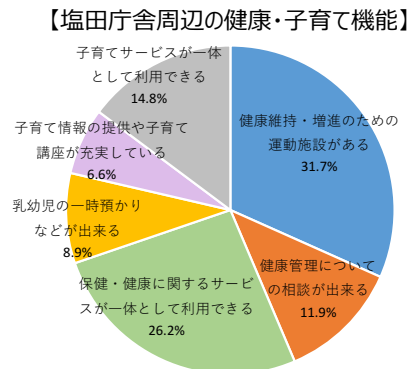


【年齢別 地域活性機能】



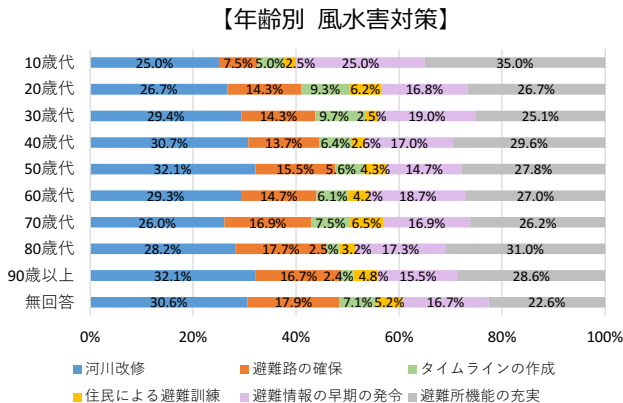
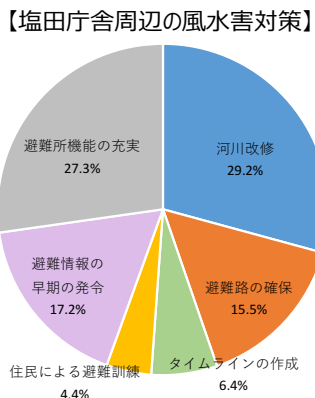
(サ) 塩田庁舎周辺の健康・子育て機能

20～30代の子育て世代は「子育てサービスが一体として利用できる」、年齢が高い層は「健康維持・増進のための運動施設」・「保健・健康に関するサービスが一体として利用」が必要と考えられています。自由意見では、施設の誘致や子育て支援サービスに関する意見が多くなっています。



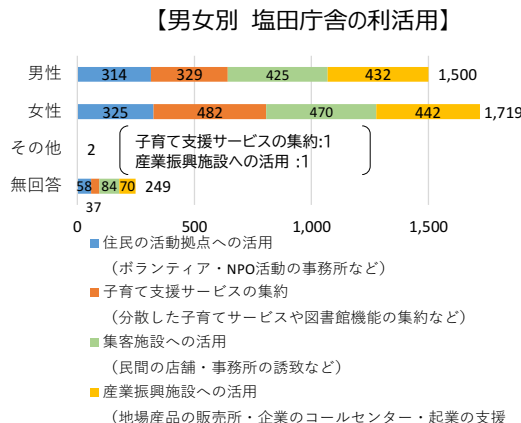
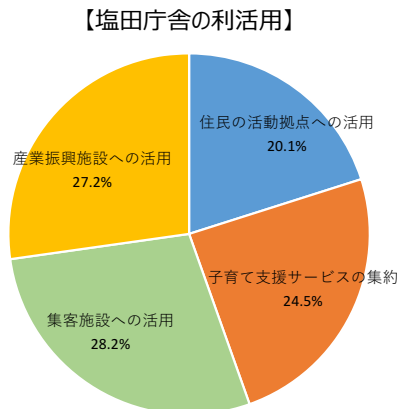
(シ) 塩田庁舎周辺の風水害対策

「河川改修」・「避難所機能の充実」世代による意見の特徴はあまり見受けられませんが、他の設問に比べて自由意見が多く、風水害対策に対する住民の関心は高くなっています。避難所の機能に関しては特に女性が重要視しており、自由意見も多くなっています。



(ス) 塩田庁舎の利活用

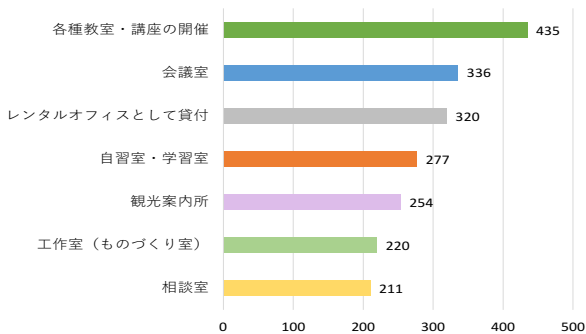
回答者の年齢を問わず「集客施設への活用」・「産業振興施設への活用」に対する重要度の意識が高くなっています。特に「子育て支援サービスの集約」においては、女性の割合が高くなっています。



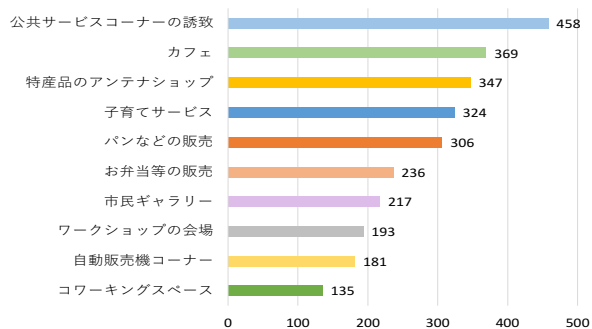
(セ) 塩田庁舎の具体的な活用方法

会議室・諸室については、講座等の開催による活用法が多く、オープンスペースでは、郵便局などの公共サービスコーナーの誘致が高くなっています。

【会議室・諸室の利活用】

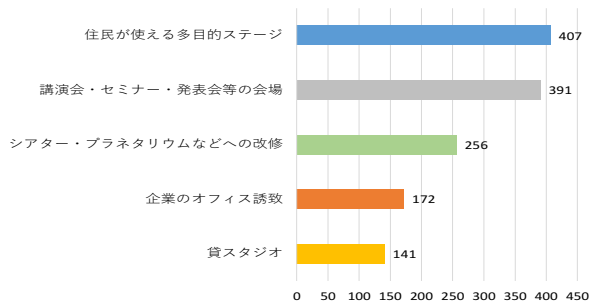


【オープンスペースの利活用】

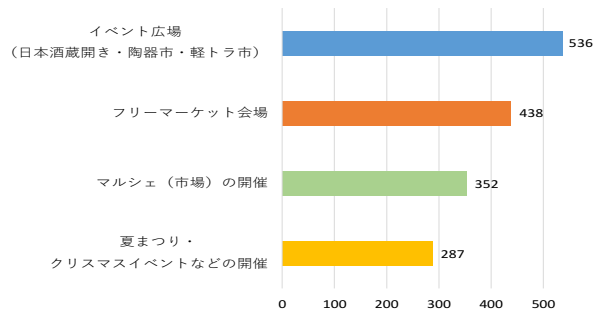


議場の活用においては住民に開放した多目的ステージや講演会等の会場、駐車場スペースにおいてはイベント広場としての活用が多くなっています。

【議場の利活用】



【駐車場スペースの利活用】



⑤ 市民アンケートのまとめ

塩田庁舎等周辺公共施設の利用状況として、月に数回以上が10%を超える施設は、塩田庁舎と公民館のみでした。よく利用するサービスは「証明書」、「各種申請」、「相談窓口」などの行政サービスの利用、年に数回程度は健康診断やイベントなど、各施設に特化した利用もされています。また、施設利用時の交通手段は約9割が車やバイクとなっていました。

塩田庁舎周辺の将来像としては、「健康づくり・子育て環境づくり」、「にぎわいづくり」、「伝統・文化・芸術」、「住民同士の交流」それぞれが重要と考えられています。

「健康づくり・子育て環境づくり」に関しては、健康維持・増進のための健康施設や保健・健康・子育てに関して一体的に利用できるサービスが望まれています。

「にぎわいづくり」では、ちょっと寄りたくなるようなおしゃれな店、企業や店舗の誘致、新鮮な農産物が手に入る場所、フリーマーケットができる広場など、新しい店舗誘致や、これまでない機能が望まれています。

「伝統・文化・芸術」では、塩田町の伝統・文化・芸術の体験や住民が中心となった文化・伝統・歴史・芸術に関する活動など、体験型を重視する傾向がみられました。

「出会い・交流」では、住民が参加するイベントや催し物の開催、地域の多世代が交流することへの関心が高く、市内外から人が訪れる交流を望む声が多くありました。

塩田庁舎周辺の風水害対策では、河川改修のほか避難所の充実を望む声が多くありました。

塩田庁舎の利活用に関しては、「集客施設への活用」、「産業振興施設への活用」、「子育て支援サービスの集約」、「住民の活動拠点への活用」それぞれを重要と考えていますが、特に女性において「子育て支援サービスの集約」を望む声が多くありました。

塩田庁舎の具体的な活用方法については、会議室・諸室は講座等の開催による活用が多く、オープンスペースでは、郵便局などの公共サービスコーナーの誘致、議場の活用は住民に開放した多目的ステージや講演会等の会場、駐車場スペースはイベント広場としての活用という意見が多くありました。

2) 中学生アンケート

中学生アンケートは、塩田中学校に通う生徒さんを対象に、塩田庁舎周辺の活用状況や、塩田町のイメージ、そして、塩田庁舎を今後どのように利活用したら最も地域のためになるかなどについて調査を実施しました。

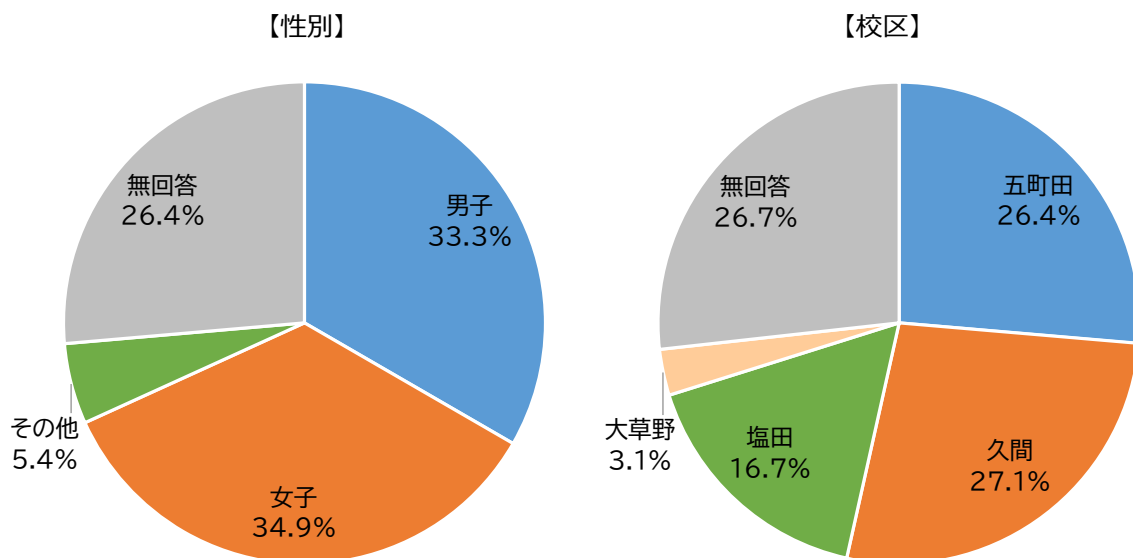
① 調査方法

- 調査対象：塩田中学校に通う生徒（1～3年生）
- 調査日：令和5年7月20日
- 回収結果：

学年	配布数
1年生	92
2年生	89
3年生	77
計	258

② 回答者の属性

男女別に見ると、「男子」「女子」共に3割半ばとなっています。居住する4校区については、「久間」「五町田」校区が3割弱で最も多く、次いで「塩田」校区の2割弱となっています。



③ 設問の構成

アンケートで調査した設問は、塩田庁舎及び周辺施設をこれまでに利用した事があるか、また、塩田町のイメージや、これから特に取り組んでいくべきだと思う事、庁舎の余裕スペースの利活用イメージなど、今後の施設の活用方法などについてお聞きしました。

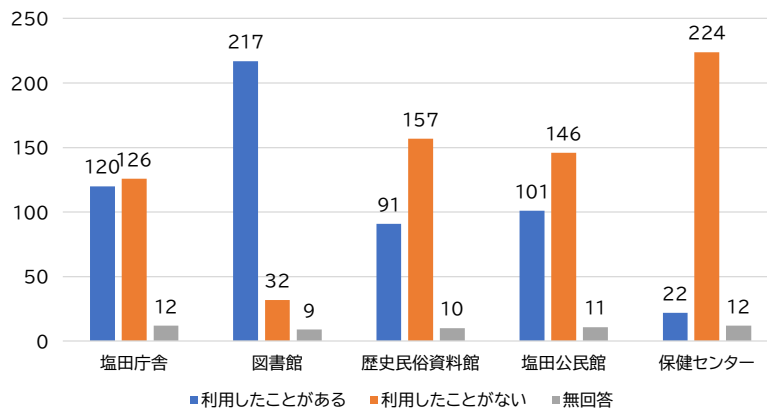
- 【中学生アンケートの設問構成】**
- (ア) 塩田庁舎及び周辺施設の利用状況
 - (イ) 塩田町のイメージ
 - (ウ) 塩田町で特に取り組んでいくべきだと思うイメージ
 - (エ) 塩田庁舎の利活用

④ 調査結果の概要

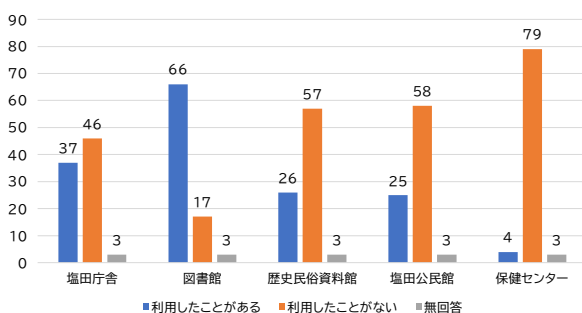
(ア) 塩田庁舎及び周辺公共施設の利用状況について

庁舎及び周辺公共施設の利用状況については、読書や学習として多くの学生が利用している図書館の利用状況が最も高く、次いで塩田庁舎の利用となっています。男女別に見ると、どの施設においても女子の利用度が高くなっています。

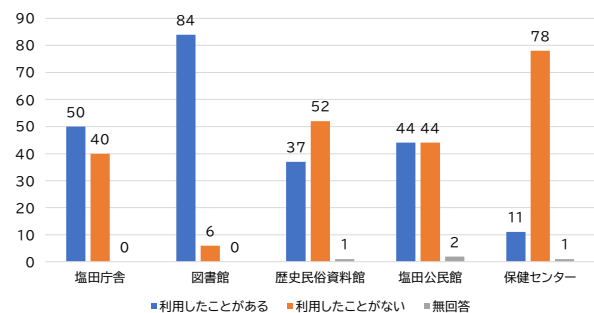
【塩田庁舎及び周辺公共施設の利用状況】



【男子の利用状況】

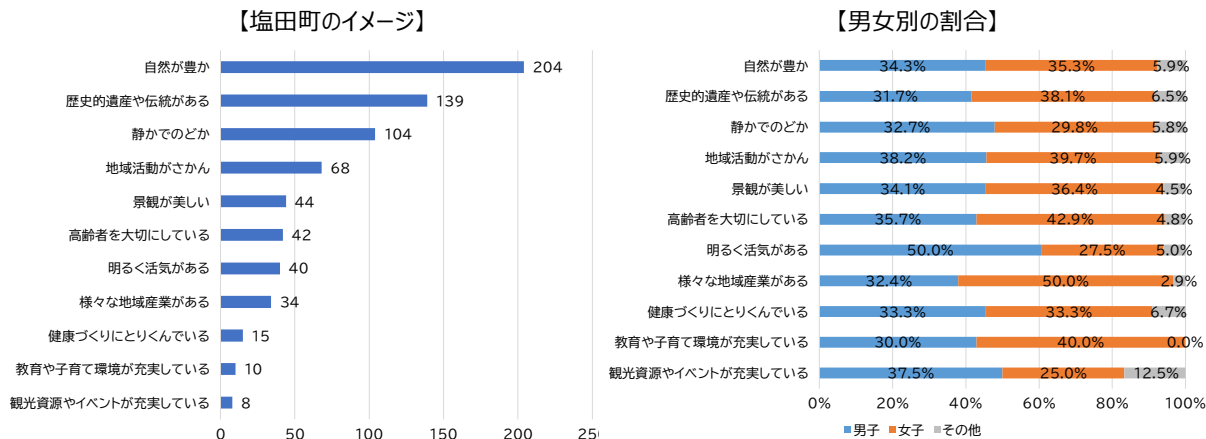


【女子の利用状況】



(イ) 塩田町のイメージ

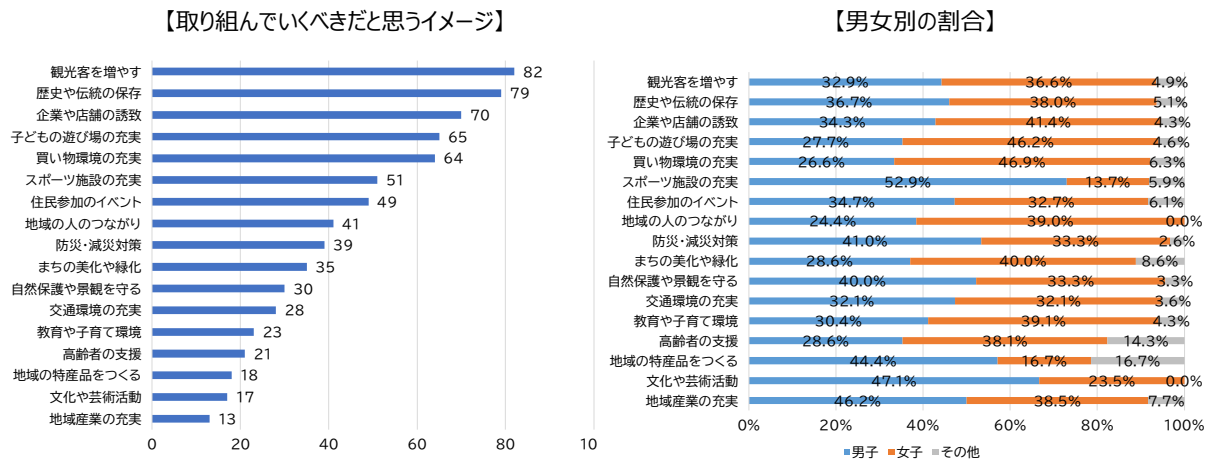
「自然が豊か」が最も多く、次いで「歴史的遺産や伝統がある」となっています。男女別の回答においては概ね同じ割合ですが、「明るく活気がある」については男子の割合が多く、「様々な地域産業がある」「教育や子育て環境が充実している」に関しては女子の割合が高くなっています。



※性別の無回答は除く

(ウ) 塩田町で特に取り組んで行くべきだと思うイメージ

「観光客を増やす」が最も多く、次いで「歴史や伝統の保存」となっています。男女別の回答においては、男子では「スポーツ施設の充実」の割合が高く、次いで「文化や芸術活動」となっています。女子では「買い物環境の充実」の割合が高く、次いで「子どもの遊び場の充実」となっています。

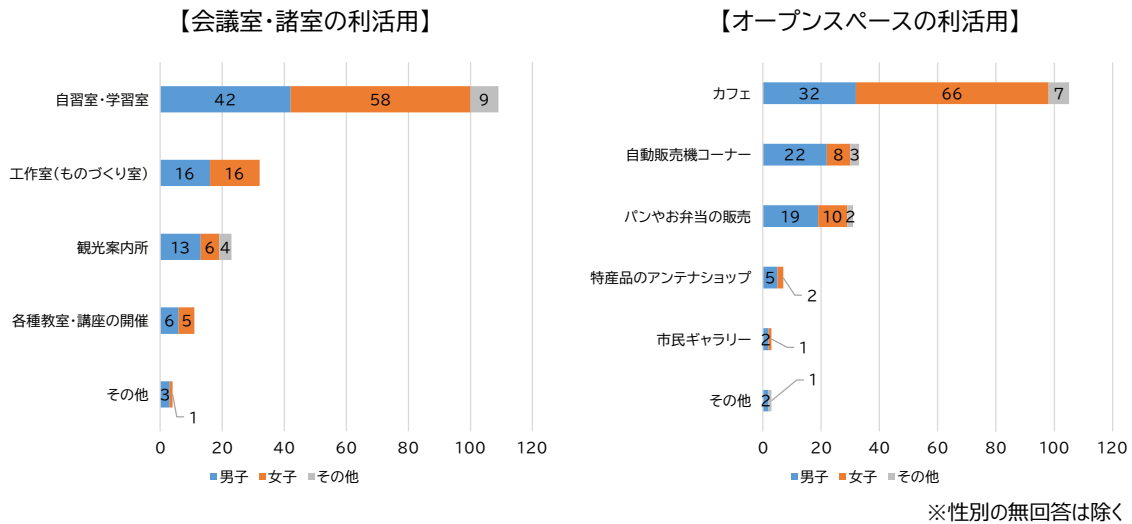


※性別の無回答は除く

(工) 塩田庁舎の利活用

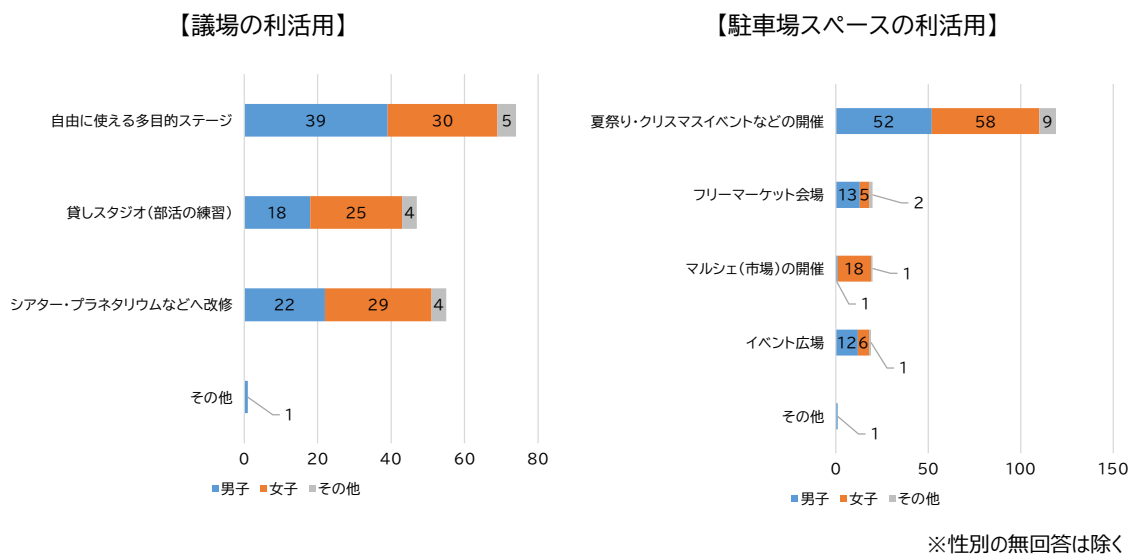
会議室・諸室の利活用については、「自習室・学習室」への活用が最も多く、男女別では女子の割合が高くなっています。次いで「工作室」となっています。

オープンスペースの利活用については、「カフェ」への活用が最も多く、女子の割合が高くなっています。次いで「自動販売機コーナー」となっています。「カフェ」以外ではいずれも男子の割合が高くなっています。



議場の利活用については、「自由に使える多目的ステージ」への活用が最も多く、男子の割合が高くなっています。次いで「貸しスタジオ（部活の練習）」となっていますが、こちらは女子の割合が高くなっています。

駐車場スペースの利活用については、「夏祭り・クリスマスイベントなどの開催」への活用が最も多く、次いで「フリーマーケット会場」となっています。男女別の回答においては、男子では「イベント広場」や「フリーマーケット会場」の割合が高く、女子では「マルシェ（市場）の開催」や「夏祭り・クリスマスイベントなどの開催」の割合が高くなっています。



⑤ 中学生アンケートのまとめ

塩田庁舎及び周辺公共施設の利用状況は図書館の利用が最も多く、ほとんどの生徒が利用しています。また、塩田町のイメージは、「自然が豊か」で「歴史的遺産や伝統」などを感じています。

塩田町で特に取り組むべきだと思うイメージでは、「観光客を増やす」、「歴史や伝統の保存」、「企業や店舗の誘致」、「住民参加のイベント」など地域に目を向けると同時に、「子供の遊び場」、「買い物環境の充実」、「スポーツ施設」など生活環境の充実に関する意見が多くありました。

塩田庁舎の利活用では、会議室・諸室は「自習室・学習室」「工作室」など、オープンスペースは、「カフェ」「自動販売機コーナー」「パンやお弁当の販売」が多くありました。

議場は、「自由に使える多目的ステージ」、「シアター・プラネタリウム」、駐車場スペースは、「夏祭り・クリスマスイベントなどの開催」などイベント広場としての利用について意見が多くありました。

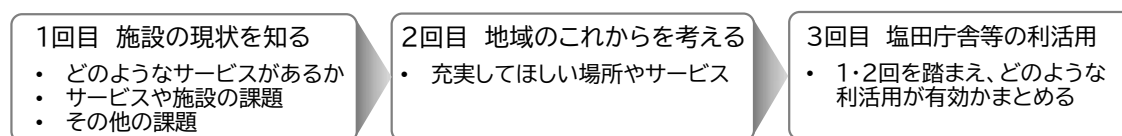
2. 市民ワークショップ

1) ワークショップ全体の目的

市民ワークショップは、「塩田庁舎と周辺施設を有効活用した、新しい時代に合ったまちづくりの方向性を明らかにする」ことを全体の目的として掲げ、これからの塩田町のまちづくりを考えた時に、庁舎及び周辺施設をどのように利活用することが有効なのか、また、庁舎周辺の公共施設の保つ機能を再編・集約することで、より充実したサービスやにぎわいづくりを創出できないかなどについて考えるワークショップを開催しました。

2) ワークショップの構成

ワークショップは計3回実施し、ひとが集い、賑わうための工夫・アイデアや、そのために有効となる公共施設の機能、利活用のためのヒントとなるものについて話し合いました。3回の構成は以下となります。



3) ワークショップの参加者

ワークショップの参加者は、多世代の意見が反映できるように「子育て」「健康」「中高生」「文化・伝統・芸術」「にぎわい創出」「地域交流」などのテーマを想定して、中学生以上を一般公募により募集し、26名の市民が参加されました。



第1回ワークショップ

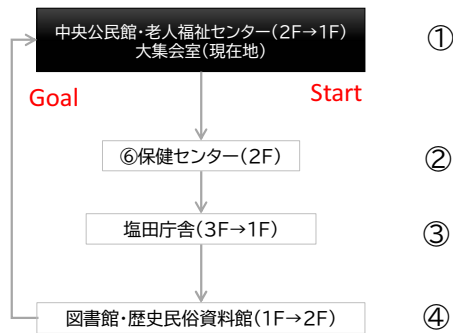
第 1 回「塩田庁舎と周辺施設を探検しよう！」

プログラム

- 1 「施設探検に出かけよう！」
- 2 「探検して気づいたことを共有しよう！」

第 1 回目のワークショップは、塩田庁舎及び周辺施設の現状を知るということで、まずはそれぞれの施設でどのようなサービスが提供されているのか、そのサービスや施設の課題は何かあるかということを目的として、庁舎及び周辺施設を探検しました。探検においては施設ごとにサービスの概要や施設の間取りが記されたメモ用紙を持って施設の「良いところ」や「課題と思うところ」など記入してもらいました。

【探検ルートと探検の様子】



施設名: 塩田庁舎

【探検メモ用紙】

○ 施設の概要

1F 1Fの一部は、窓口サービスとして使用する予定です。丸い柱は構造的なもので取り外すことはできません。塩田庁舎には、エレベーターがあります。出入口は3か所。正面のほか、エレベーター横と別館方面にあります。庁舎内は、Wi-Fi環境になっています。多機能トイレがあります。その他会議室があります。

2F ほぼフロア全域をオープンスペースとして活用できます。トイレ・給湯室があります。別館へつながる通路があり、別館は講堂・会議室になります。

3F 会議室のほか、備後があります。トイレ・給湯室が2か所ずつあります。アーチ状の窓からの塩田の町を遠望できます。

駐車場 駐車場は、地下と地上にあります。庁舎統合に伴い、駐車スペースにもわたりが出ます。

○ 施設探検メモ

サービスや施設の良い点や課題		その他気づいた点
良い点	課題と思うところ	



① 塩田庁舎及び周辺施設の良いところ、課題と思うところ

ワークショップでは主に塩田庁舎に関する意見が多く出されており、特に3階からの眺望など開放感や見晴らしの良い景色が展望できるところが良いという意見が多くありました。一方で庁舎と図書館とのつながりの薄さなどが課題という意見もありました。

中央公民館・保健センターでは、部屋の多さや居心地の良さといった空間に関して良いと思われる意見がありました。課題としては建物老朽化や設備に関するもの、また、照明の暗さなどの意見もありました。

図書館・歴史民俗資料館では、庁舎への図書機能の移設や資料館の拡張についての提案や、逆に今のままでも良いのでは、という意見もありました。

【ワークショップでの意見】

【良いところに関する意見】

- 塩田庁舎
 - 庁舎3階からの眺望が良かった
 - 小さな部屋が多く、いろいろな活用ができる
 - 駐車場が広い
- 中央公民館/保健センター
 - 座敷の居心地がよい
 - 部屋が多い
 - 小さな部屋は少人数で活用できる
- 図書館/歴史民俗資料館
 - ワンフロアとして使える
 - 利用者が多い
 - 畳の部屋は避難スペースとして安心感がある

【課題と思うところに関する意見】

- 塩田庁舎
 - トイレ、洗い場が狭い
 - 椅子が劣化している
 - 地下駐車場が暗い
- 中央公民館/保健センター
 - 老朽化している
 - 廊下が暗い
 - 調理室の器具が古い
- 図書館/歴史民俗資料館
 - 静かなので子どもを遊ばせるのに気を使う
 - 収蔵物が眠っている

【要望・提案に関する意見】

- 塩田庁舎
 - お年寄り、子どもがともに集える場所
 - 会議室を貸しスペースに
 - 議場はシアターとして使えそう
 - 議場は塩田庁舎に残してほしい
 - 郵便局を入れてほしい
 - 路線バスの引き込み
- 中央公民館/保健センター
 - 大幅な改修が必要
 - 町、原町、町分区の集合公民館へ
 - 間接照明をもっと入れてほしい
 - 福祉センターの手摺を多くしたほうがいい
 - 地域のコミュニティの場に
 - 保健センターはそのままよいと思う
- 図書館/歴史民俗資料館
 - 図書スペースの充実
 - イベントの企画
 - 図書館を塩田庁舎や公民館へ移設して
 - 歴史民俗資料館を拡張する
 - そのままでもよい
 - 資料館は民俗芸能の祭りの音楽を流す
- その他施設全体
 - 水害対策
 - 憩いの場がほしい
 - 人の居場所を作りたい

第2回「地域の理想を語ろう！」

プログラム

- 1 「地域の理想を語る」
- 2 「理想と現実課題のギャップとは？」

第2回目のワークショップは、地域の理想を語るということをテーマに参加してもらいました。

① 将来、あなたはどのようになりたいですか？

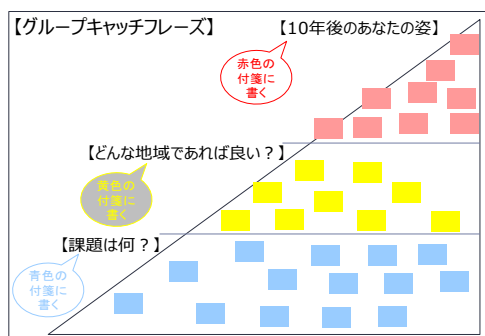
プログラム1では、地域の理想を語る上で、将来、あなたはその地域でどのようになりたいですか？まずは「自分」を主に置いて考えてもらいました。ただ、「自分」で考えるのが難しい場合は、周りの家族や親しい友人に当てはめてみて、この人だったらどうだろう、どうなって欲しいかな？といった視点で考えてもらいました。

② それを実現させるために、どんな「地域」であれば良い？

理想を実現させるためにはどんな「地域」であればよいか、あってほしいかということで、参加者の理想となる地域像を描いていただきました。

③ それを実現させるために、どんな「地域」であれば良い？

プログラム2では、みなさんが描いた「地域像」に対して、何が課題となるのか？例えば、同じ理想を持つ仲間を聞く機会や、使えるスペース、支援される制度の有無などといった、理想に対する課題を考えていただきました。



② 地域の理想及び理想と現実課題のギャップ

将来のあなたの姿に関しては、子どもとの触れ合いによる将来の姿や、仕事や技術を身につける自分の姿、いろんな人とのつながりを想像する姿など、グループごとで特徴のある意見が出されました。

地域に関しては、世代間交流ができる地域、学習がしやすい地域、災害が少ない地域など、塩田庁舎周辺の今後の将来につながるような意見も多くありました。

それらの課題として、多世代の意見を交わす場の不足や、働ける環境、支援制度の少なさ、学び・交流場所といったことをグループで取り上げ、それぞれのグループをイメージしたキャッチフレーズをつけて発表してもらいました。

【ワークショップでの意見】

【将来のあなたの姿】

- 100歳以上、健康で生活している
- 仕事やボランティアに就いて活動している
- 孫や地域の子どもと遊んでいる
- 年収1,000万円
- 男性に負けない重機オペレーターになっている
- 畑仕事をしている
- 地域の居場所づくりに関わっている
- のんびり健康でいる
- 自分の得意なことを活かしている
- 多くの人と交流している
- 無理しすぎず適度に挑戦を続けている
- 子どもがキラキラ楽しく過ごしている
- 建築の技術を身につけている
- 好きな趣味をやっている

【どんな地域であれば良い？】

- いろんな人と関われる地域
- 子どもと一緒に遊べる地域
- 世代間交流がある地域
- 全天候型の遊びのスペースがある地域
- 災害が少ない地域
- 学習がしやすい地域
- 移住者が多い地域
- 交流の場が充実している地域
- 町並みに人が集まる地域
- 学べる場がある地域
- 古民家がある地域
- 子育てサポートが日本一充実している地域
- 楽しいイベント、持続可能なイベントがある地域
- 住んでいる人がしあわせな地域

【課題は何？】

- 公共交通の不足（バス・電車）
- 中高生の交流の場が少ない
- 支援制度が少ない
- 小さな子どもが遊べる場所が少ない
- 観光名所が少ない
- 新しい施設を建設するスペースがない
- 空き家が多いが活用されていない
- 子どもの人口が少ない
- 買い物難民
- 地域魅力の情報が発信できていない
- 老人と子供の接点がない
- 働ける環境不足
- マンションなど多くの人が住める場所が少ない
- 移住体験できる施設が塩田津に1軒しかない

第3回「塩田地域に必要・充実させたい場所や機能を考えよう！」

プログラム

- 1 「必要/充実させたい機能や場を考えよう」
- 2 「どんな使い方ができるか考えよう」

第3回目のワークショップは、塩田の地域に必要であり充実させたい場所や機能をテーマに参加してもらいました。

① 周辺施設を含めた配置図に機能や場を書き出す

プログラム1では、模造紙上の配置図に自分が考える、必要・充実させたい機能や場を貼ってもらいました。そこでは、必ずしも「場所」や「施設」だけではない、「サービス」という視点も含まれてもらいます。そして、施設、建物だけではなく、駐車場といった屋外のスペースも対象とし、4つのゾーンに区切って考えてもらいました。

② 提案した機能や場に対して自分はどんな活動をする？

プログラム2では、理想を実現させるためにはどんな「地域」であればよいか、あってほしいかということで、参加者の理想となる地域像を描いてもらいました。



③ 必要/充実させたい機能や場及びその使い方

必要・充実させたい機能として、保健センター/中央公民館ゾーンでは、宿泊施設や料理教室、観光案内所といった意見が多く、ジムや娯楽スペースなどの意見もありました。

駐車場/屋外ゾーンでは、公園やイベント会場といったオープンスペースとロータリーを活かしたバスターミナルやライドシェアといった交通に関する意見が多ありました。

庁舎ゾーンでは、行政窓口に加え、郵便局やジム、カフェスペースなどの施設誘致、そして、学習や子どもの遊び場などの余裕スペースの利活用に関する意見が多ありました。

図書館/歴史民俗資料館では、学習スペースや資料の充実に加え、託児所やマンガ館などの意見もありました。

【ワークショップでの意見】

保健センター/中央公民館ゾーン	
<p>【必要/充実させたい機能・場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊施設 ・ スポーツセンター・サウナ・ジム ・ 観光案内所 ・ 料理教室 	<p>【どんな使い方？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友人に宿泊施設を紹介する ・ マッサージと仮眠室を利用してストレス解消 ・ 塩田の魅力を宣伝する ・ 子ども食堂の料理を作る
駐車場/屋外ゾーン	
<p>【必要/充実させたい機能・場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園（カフェ・マルシェ） ・ イベント会場 ・ 塩田津とつながる歩道橋 ・ バスターミナル 	<p>【どんな使い方？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カフェで妻・子と遊ぶ ・ フリマイイベントをする ・ 歩道橋に案内看板を作り SNS にアップする ・ 老人や車を利用できない人のサポート
庁舎ゾーン	
<p>【必要/充実させたい機能・場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政窓口、郵便局 ・ 図書館 ・ 子育て・学習スペース ・ レンタル会議室 	<p>【どんな使い方？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者の相談をすべて対応できる職員を配置 ・ 持ち寄り図書館で店番をする ・ 三世代が遊べるスペースを作る ・ 会議室を借りて仕事をする
図書館/歴史民俗資料館ゾーン	
<p>【必要/充実させたい機能・場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスキングのスペース ・ 児童・生徒の学習室 ・ 民俗資料の展示拡充 ・ フリーWi-Fi スポット 	<p>【どんな使い方？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得の勉強をする ・ 子どもたちの居場所 ・ 塩田の歴史の勉強会 ・ 音楽を聴きながら勉強する

④ 市民ワークショップのまとめ

第1回の「施設探検」では、塩田庁舎に関する意見が多く出され、そのまま使える場所が多いという意見や、3階からの眺望など塩田庁舎の良さも再発見しました。

中央公民館・保健センターは、部屋の多さや居心地の良さといった意見がある一方で、建物老朽化や照明の暗さなど設備に関する要望や指摘も多く聞かれました。図書館・歴史民俗資料館では、庁舎への図書機能の移設や資料館の拡張についての意見が出されています。

第2回の「地域の理想を語る」では、「世代間交流ができる地域」、「学習がしやすい地域」、「災害が少ない地域」など、塩田庁舎周辺の将来につながるような意見も多くありました。それらの課題として「多世代の意見を交わす場の不足」、「働ける環境や支援制度の少なさ」、「学び・交流場所の充実」などが挙げられました。この回では各班の考え方を象徴するキャッチフレーズを考えて班の意見とともに発表しました。

第3回の「塩田庁舎周辺に必要・充実させたい機能」について、庁舎ゾーンでは、「行政窓口に加え、郵便局やジム、カフェスペースなどの施設誘致」や「学習や子どもの遊び場など居場所の確保」、「余裕スペースの利活用」など、ソフト対策に関する意見が多くありました。保健センター/中央公民館ゾーンでは、保健センターは基本的にそのまま利用することを前提に「宿泊施設や料理教室、観光案内所」といった利活用や、「ジムや娯楽スペース」の設置などの意見もありました。駐車場/屋外ゾーンでは、「公園やイベント会場」といったオープンスペースとしての利活用やロータリーを活かした「バスターミナルやライドシェア」といった交通に関する意見が多くありました。図書館/歴史民俗資料館では、「学習スペースや資料の充実」に加え、「託児所やマンガ館」、「歴史民俗資料館の展示機能を塩田津へ移設する」などの意見もありました。

ワークショップの参加者へのアンケートでは、参加の動機として「塩田庁舎の利活用に関心があった」、「自分の良い経験になると思った」などが大半でした。

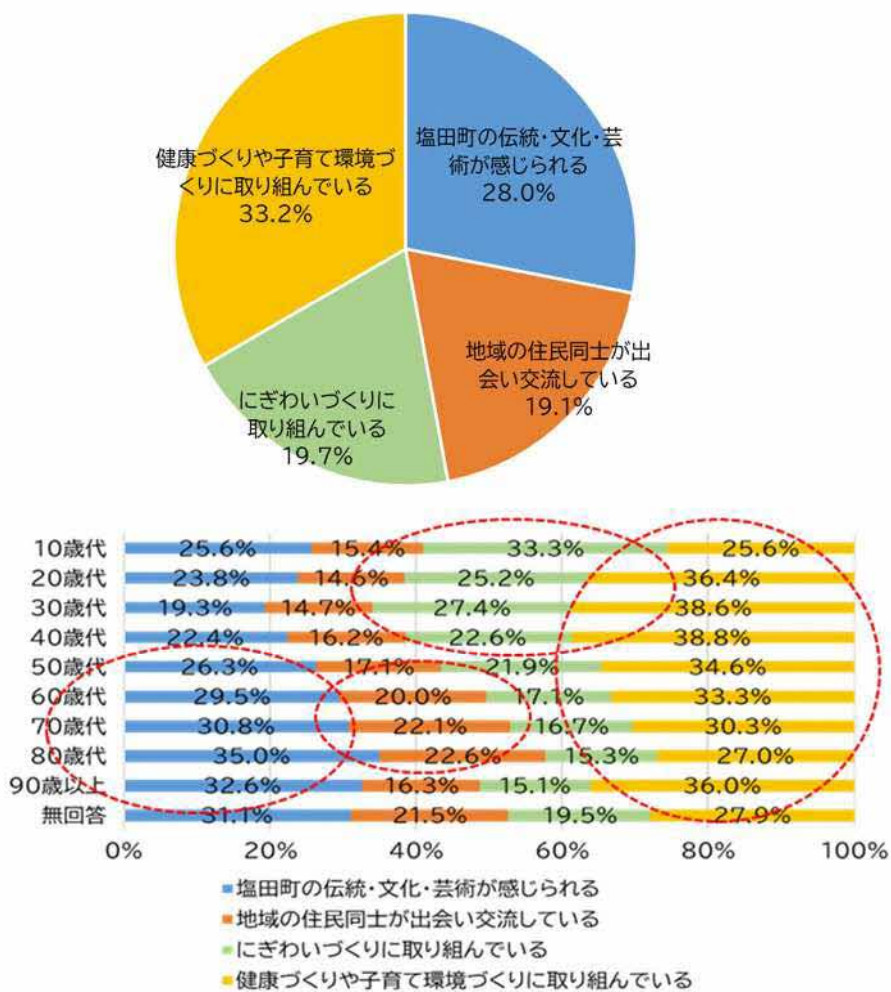
また、3回のワークショップを通じてほぼすべての参加者が「参加して良かった」という意見でした。その理由として「世代を超えていろいろな人の意見を聞いた」ことや、「それぞれの参加者が地域を良くしたいという思いがわかった」など、ワークショップの中で現実的で前向きな意見が多く出されていたことが要因だと思われます。今回のワークショップを通じて、「各グループで中学生・高校生との交流を望む声が多かった」ことや、「人と人のつながりが重要である」という意見は特に多く、将来を担う若い世代に良い環境を残していきたいという考え方はグループを超えて共通していたと思われます。

3. 市民アンケート及び市民ワークショップの分析

1) 市民アンケートからワークショップへ

市民アンケートで回答のあった塩田町の将来像は、「健康づくりや子育て環境づくりに取り組んでいる」、「塩田町の伝統・文化・芸術が感じられる」で約 60%と割合が多いですが、「にぎわいづくりに取り組んでいる」や「地域の住民同士が出会い交流している」も一定数志向されており、それぞれに関心が高いことがわかります。

また、年齢別の内訳から、「健康づくりや子育て環境づくりに取り組んでいる」は年齢を問わず多いことや、「塩田町の伝統・文化・芸術が感じられる」及び「地域の住民同士が出会い交流している」は、年齢が高い層が志向しており「にぎわいづくりに取り組んでいる」は若い年代が志向している傾向が伺えます。



この結果より、市民ワークショップの実施にあたっては、「子育て」、「健康」、「文化・伝統・芸術」、「にぎわい創造」、「地域交流」などのテーマを掲げ、中学生以上を一般公募するとともに関係団体等に応募の声かけを実施しました。

また、塩田中学校及び嬉野高校塩田校舎へは直接参加をお願いしました。

2) 市民ワークショップ

市民ワークショップでは施設を実際に視察することから始め、「個人の集まりが地域を作っていく」という発想から、「〇〇してほしい」ではなく「自分ならこうしたい」という考え方で地域の理想を想定し、塩田庁舎及び周辺公共施設の利活用について意見を出し合いました。

第1回の施設探検では、塩田庁舎などでそのまま使える部屋が多い事や3階からの眺望など施設の再発見があった一方で、施設の老朽化や設備への改善要望も聞かれました。

第2回の「地域の理想を語るワークショップ」では、地域の理想では自分の将来からあるべき地域を考えることから、理想を実現するための課題を確認しました。

その中で、各班が作成したキャッチフレーズをもとに「塩田庁舎等利活用に係る地域の将来像」について整理を行いました。

○ 塩田庁舎等利活用に係る地域の将来像（各班のキャッチフレーズより）

未来は人。
人と人がつながり、つながりつづけていく地域。
人が住みたくなるような健康で活力のある地域。若者が夢を語れる地域。

○ キャッチフレーズの具体的なイメージ

※ 〇〇してほしいではなく〇〇するという活動目線で表現

- 必要な情報が必要な人に届いていない。デジタル化は進めていくけど、やっぱり人がつないでいく。そのためには人を集めたり、人が集まる場所をつくる。そして、継続して人のつながりを作り続けていく。
- 生活者（住民自身）が生活しやすい環境で、多世代が健康でいられて、いつまでも学び続けられる地域をつくる。
- 子どもたちが自由に活用できる居場所を用意し、遊び・学習できる地域をつくる。
- 塩田川や塩田津などの地域資産を充実させて、活力がある、観光客や移住者に選んでもらえるような魅力的な地域をつくっていく。

さらに第3回のワークショップにおいて、「塩田地域に必要・充実させたい場所や機能を考える」をテーマに、塩田庁舎周辺を4つのゾーン（「保健センター/中央公民館ゾーン」、「駐車場/屋外ゾーン」、「庁舎ゾーン」、「図書館/歴史民俗資料館ゾーン」）に分けて、具体的な利活用について検討を行いました。

この中では、単に施設に必要な機能や機能再編のほか、塩田庁舎等周辺の交通環境の改善や、庁舎前駐車場の公園化（緑地化）などへの意見も多く出されたほか、塩田津との連携の重要性など、施設の位置づけに係る意見も出されました。

3) 市民アンケート及び市民ワークショップの分析

市民アンケート及び市民ワークショップの分析結果をもとに、塩田庁舎等利活用基本構想を作成するにあたっての条件を以下のように整理しました。

- 市民アンケート及び市民ワークショップの分析から「行政窓口機能」に加え「子育て支援機能」「市民活動機能」「教育・学習機能」「伝統・文化・芸術活動機能」「健康・福祉支援機能」「出会い・交流機能」「にぎわい創出・活性化機能」など総合的な機能を持った施設整備が求められている。
- 「健康づくり・子育て環境づくり」では、健康維持・増進のための健康施設や保健・健康・子育てに関して一体的に利用できるサービスを求める意見が多い。
- 「にぎわいづくり」では、「集客施設への活用」「産業振興施設への活用」や企業や店舗の誘致への意見が多い。
- 「伝統・文化・芸術」では、塩田町の伝統・文化・芸術の体験や住民が中心となった文化・伝統・歴史・芸術に関する活動への意見が多い。
- 「出会い・交流」は、住民が参加するイベントや催し物の開催や地域の多世代が交流することへの関心が高く、市内外から人が訪れる交流を望む声も多い。
- 災害対応として、避難所機能の充実への要望が多い。
- その他、塩田庁舎等への交通環境や塩田庁舎前駐車場の公園・緑地化の可能性も含めた再整備の検討が求められている。

これらの要望へ対応するためには、個々の施設の個別の利用の在り方を超えて、塩田庁舎及び周辺公共施設を一体として整備する必要があると同時に、リバティや楠風館など類似・代用機能を持つ施設も含めた総合的な機能再編の検討や、塩田津との連携効果の検討なども併せて行う必要があると思われます。

第3章 基本構想

第3章 基本構想

1. 施設整備にあたっての基本的な考え方

前段のアンケート及びワークショップ等の整理並びに分析を受けての市民意見と、一般的に必要な機能などの技術的な視点による基本的な考え方、方向性を整理します。

塩田庁舎等に期待する施設や機能として、「行政窓口機能」に加え、「子育て支援機能」、「市民活動機能」、「教育・学習機能」、「文化・伝統・歴史・芸術活動機能」、「健康・福祉支援機能」、「出会い・交流機能」、「にぎわい創出・活性化機能」など、総合的な機能が必要であるという結果でした。

塩田庁舎等を取り巻く概況や上位計画における考え方、アンケート結果による利活用の方向性、まちづくりの課題等を踏まえ、塩田庁舎等の利活用の方向性について検討を行いました。その結果、塩田庁舎等の利活用検討にあたっては、地域から切り離して個別に検討するのではなく、地域における構成要素の一つとして捉え、地域へいかに貢献するかという観点から検討すべきであり、利活用の方向性としては、多くの人が集まり交流するような賑わいをつくることが重要だと考えられます。

現状から見える課題の整理と対応

- 行政窓口機能は、より質の高い行政サービスを検討
- 子どもの遊び場や学習の場など、子どもたちが集える空間整備を検討
- 多様化する交流機会の創出を検討
- イベントや催し物などの機会を増やし、施設自体の利用促進を検討
- 財政負担の軽減を図るための、施設機能の複合化・多機能化による施設サービスの向上を検討
- 地域住民の高齢化に伴うコミュニティ活動の低下や、人口構成の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した公共施設サービスを検討
- 耐震性の問題、老朽化や設備機能が不十分であるなど、十分な施設サービスを提供できていないことが懸念される施設の解決策を検討
- 公共施設として必要な設備（多目的トイレ、エレベーター等）だけでなく、各施設が提供するサービスに適した設備を検討
- 施設は、地域の拠点として、多世代の市民が気軽に集え・利用でき、コミュニティ活動の場・情報交換の場となる施設として整備を検討
- 自動車を交通手段とする利用者が多いことから、駐車スペースや駐車台数を考慮して検討
- 市民が利用できる会議室やフリースペースを整備するとともに、生活利便性の向上のために売店や飲食店等の併設を検討
- 利用者にとって同施設内に様々な機能を配置することによるメリットもあることから、ハード・ソフトの両面からの整備を検討
- まちの情報を取り扱う機能等を導入する等、市の情報発信と併せて地域課題を解決するきっかけとなる拠点としての整備を検討
- **避難所機能の充実を検討**

2. 基本理念

前項の基本的な考え方の整理を受けて、行政窓口機能の継続や教育、賑わい、福祉、観光といった、基本構想の理念について、それぞれの視点ごとに、そのあり方を整理して基本理念を設定します。

塩田庁舎等を取りまく概況や上位・関連計画における考え方、市民意見等を踏まえ、利活用の方向性を考える上での基本理念を以下のとおりとします。

基本理念

人と人がつながり、つながりつづけていく地域
塩田地区の新たな賑わいの創出

【 賑わいの方向性 】

■ 生活の頼りとなり、日常的にひとが集まる「つながり」・「賑わい」

行政サービスの充実や、さまざまな情報発信とイベントスペースの創出により、多くの人を呼ぶことができる施設・内容を目指します。

■ 憩い・交流の場としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区内に、ほっとできる憩いの空間として整備し、子どもから高齢者まで、多世代の人々の交流を促進する機能を目指します。

■ ひとや文化を育む拠点としての「つながり」・「賑わい」

塩田地区の歴史・伝統との連携や、文化・生涯学習施設、多彩な文化事業のほか、市民の生涯学習活動にも対応した施設とすることを目指します。

3. 活用の基本方針

長い間市民に親しまれている塩田庁舎及び周辺公共施設であることから、近隣の住民の生活拠点のよりどころはもとより、他市からの来訪者を呼び込めるような空間とし、子どもから高齢者まで、多世代の人々がその空間で憩い・交流することを中心とした「つながり」・「賑わい」を創出します。

行政サービスや市民の活動・交流機能などの集積を図り、賑わいの拠点を形成する「にぎわい拠点ゾーン」の核となる施設の一つとして、関連するサービス機能等の集積を図りながら日常的な来庁者を増やす「つながり」・「賑わい」の創出を目指します。

基本方針

■ 気軽に「集う」「憩う」場

文化・伝統・歴史・芸術や生涯学習にあまり触れることのない市民でも「行ってみたい」と思えるような、集い、遊び、憩いのある空間や機能を設けます。また、ふらっと訪れた人々が「ちょっとやってみよう」と気軽に参加して楽しめる体験型の事業も多く提供します。個性ある塩田の文化を「創りだす」、「発信する」場、それぞれの諸室の機能を活かし、運営面でも工夫をして、塩田でしか観られない、体験できない個性ある事業を楽しめるようにします。また、継続して個性的な事業を展開し、塩田の魅力を発見・発信する場となることを目指します。

■ 多様な生涯学習を通じて「学ぶ」「育む」場

公民館機能を活かし、市民の学びを育み、地域の課題解決等に寄与する講座等の提供、様々な活動の場となることを目指します。

■ バリアなく「出会う」「触れ合う」場

世代や居住地の異なる市民、障がい者、外国籍住民など、誰でも訪れやすい施設やサービスの提供や鑑賞・体験等ができる事業の提供を通じ、物理的なバリア、心理的なバリアを取り払い、多くの人が出会いや交流を生み出すなど、住民ひとりひとりが地域の一員として支え合える場となることを目指します。

■ 未来につながる文化・伝統・歴史・芸術の担い手を「育てる」「継承する」場

市内の文化・伝統・歴史・芸術団体や、文化・伝統・歴史・芸術関係の部活動のスキルアップの機会の提供、文化・伝統・歴史・芸術を支える人材の育成を推進し、多様な文化、郷土の歴史等を未来につなげていく持続可能な体制・環境づくりを目指します。

4. 施設の新たな役割

設定した基本理念及び基本方針を踏まえ、塩田庁舎及び周辺公共施設の新たな役割や機能について、その施設の役割・位置づけやコンセプトを設定します。

塩田地区の生活・行政サービスの拠点としての機能はもちろん、子育て・教育、文化面で、市内全域から人々が訪れ、「以前よりすごく便利」、「行ってみたら楽しかった」、「また行きたい」と感じられる施設づくりから始めます。そのうえで、日々の生活への安心感と、文化・伝統・歴史・芸術や生涯学習を通じた「学び」、「育み」、「触れ合い」を提供し、文化や学びに触れていく環境づくりを図ることで、多くの市民が集まり、楽しむ拠点として賑わい、他にない「塩田らしさ」を体現する文化と人の交流の場となることを目指します。

【新しい施設（地域）整備にあたっての基本コンセプト（案）】

地域の魅力が創出され、世代を超えた地域交流拠点

コンセプト

● 生活拠点の軸となる施設（地域）

各種拠点機能（行政サービスによる生活拠点、子育て支援、生涯学習、産業振興、市民交流、情報発信）を持たせ、常時利用者が出入りし、賑わいや魅力が創出される中枢拠点として施設（地域）を目指します。

● 文化・伝統・歴史・芸術が身近に感じられる施設（地域）

塩田津を中心に、住民に趣味等の気軽な楽しみ方や日常生活を充実させることができる“居場所”と思われる塩田地区の中心的施設（地域）を目指します。

● デジタルと新しい生活スタイルで新たな魅力を生む施設（地域）

機能連携による公共サービスの質を高めるとともに、効果的な施設運営（公設民営、市民主体の施設運営等）に取り組みます。各施設へのWi-Fiの設置やSNSなど、様々な情報伝達手段の活用により、行政情報などが利用者に届く仕組みや利用しやすい施設運営に取り組み、新しい生活スタイルを支える魅力ある施設（地域）を目指します。

● 子育て・福祉へのサポートが充実した施設（地域）

子育て世代、高齢者及び障がい者等への支援サービスの充実を図り、いつでも気軽に訪問できる施設（地域）を目指します。また、健康・子育て支援など、利用者同士の情報交換や交流を促進する機能を目指します。

● 世代を超えて人々が集い、賑わいが生まれる施設（地域）

共用スペースを中心として各機能を配置することで、子どもから大人までの市民が顔を合わせられる施設（地域）を目指します。

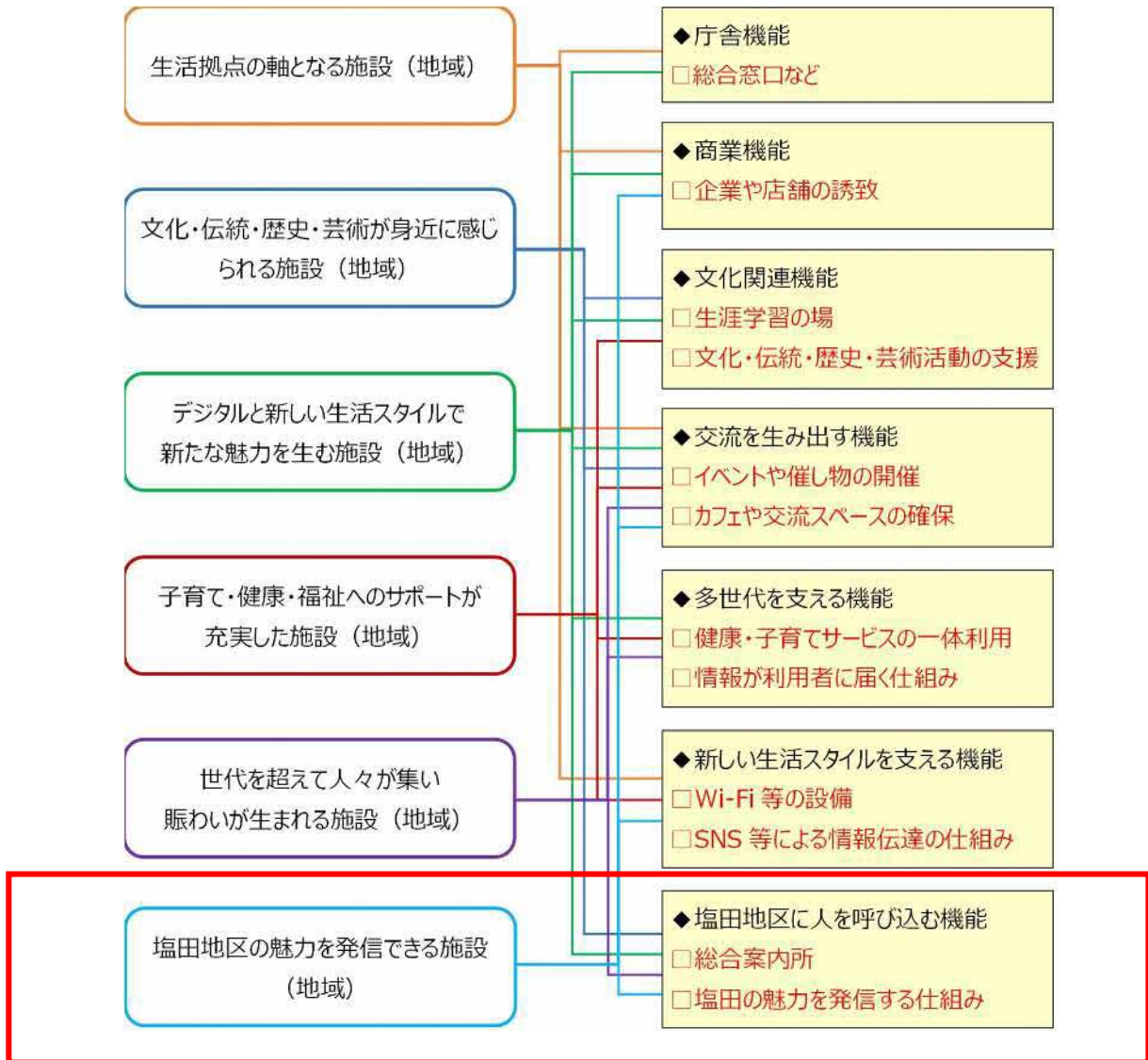
● 塩田地区の魅力を発信できる施設（地域）

塩田津の文化・歴史をはじめ、長崎街道や志田焼など塩田地区の魅力を発信し、市外から多くの人を呼び込めようことや移住促進につながる情報を発信できる施設（地域）を目指します。

5. 導入機能イメージ

基本構想において導入の対象とする機能のイメージについて、コンセプトを踏まえ以下に示します。

ここでは公共と民間の別なく、施設として導入が想定できる機能を例示し、今後の市場調査等を踏まえ、公共機能と民間機能の区分を今後示していきます。



6. 基本計画に向けて

本基本構想では、市民の意見を踏まえ、塩田庁舎等利活用の基本理念やコンセプトや必要な機能についてとりまとめました。今後は、利活用の具体化や実現に向けた事業化の検討を踏まえ、塩田庁舎等利活用における諸室・設備の概要や施設の運用方針、提供サービスの概要などを基本計画としてとりまとめていきます。

基本計画の検討については、塩田庁舎及び周辺公共施設の一体的な整備に加え、リバティや楠風館など類似・代用機能を持つ施設も含めた総合的な機能再編の検討も必要であることから、行政だけではなく民間活力の導入による事業の検討なども重要となってきます。これらのことから、塩田庁舎等の利活用では、民間事業者との対話を重ね、そのアイデアやノウハウ、資金を活用することによるサービスの向上やコストの削減など、公民連携という事業手法についても視野に入れていきます。

資料編

1. 委員会設置条例

○嬉野市塩田庁舎等利活用検討委員会設置条例

令和4年9月21日

条例第11号

(設置)

第1条 塩田庁舎等の利活用に当たり、より具体的な活用策についての検討及び協議を行うため、嬉野市塩田庁舎等利活用検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討及び協議を行い、その結果を市長に報告する。

- (1) 塩田庁舎等の利活用に関すること。
- (2) その他塩田庁舎等の利活用に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者又は知識経験を有する者
- (2) 公共的団体等が推薦する者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条に定める市長への報告が終了する日までの期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によって定め、副委員長は、委員長が委員のうちから指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席をもって成立するものとする。

3 会議は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(その他)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の招集の特例)

2 この条例の施行後、最初に開かれる委員会は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(この条例の失効)

3 この条例は、第2条に定める市長への報告が終了する日限り、その効力を失う。

2. 塩田庁舎等利活用検討委員会検討内容


日程	委員会	主たる検討内容
令和5年1月19日	第1回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨、概要説明 ・委員会スケジュール説明 ・庁舎等利活用参考事例紹介
令和5年2月16日	第2回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の実施 講師 前橋工科大学 堤准教授
令和5年3月28日	第3回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・塩田庁舎等利活用に係る条件の整理 ・市民アンケート（案）の検討
令和5年6月30日	第4回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート結果の報告 ・市民ワークショップの概要説明 ・中学生アンケート（案）の検討
令和5年10月30日	第5回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップ結果の報告 ・中学生アンケート結果の報告 ・基本構想の構成（案）の説明
令和5年11月27日	第6回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想について協議
令和5年12月27日	第7回 塩田庁舎等利活用検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・検討内容のとりまとめ

3. 庁舎等利活用参考事例

【議場の利活用】

番号	1	自治体名	山梨県北杜（ほくと）市
合併自治体名	坂町・高根町・大泉村・白州町・武川村・須玉町・明野村・小淵沢町		
市の特徴	<p>【面積】 602.48km² 【人口】 43,536 人（2022 年 12 月 1 日） 【人口密度】 72.3 人/km²</p> <p>八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳といった山々に囲まれ、市域のおよそ 3 分の 1 が八ヶ岳南麓の冷涼な山岳高原地からなっているため、高原観光によって支えられている街である。市内にはアウトレットモール、牧場といった観光スポットが存在し、夏場には観光客が多くみられる。南アルプスからの湧水によるウイスキー製造、日本一長いといわれる日照時間や映画にも登場したヒマワリ畑などでも知られている。また市域には八ヶ岳連峰の最高峰である赤岳が含まれ、赤岳は山梨県の北端でもある。</p>		
利活用庁舎	長坂町庁舎議場→北杜市囲碁美術館		
キーワード	社会文化・教育的利用、趣味、不特定多数利用、市外住者利用可		
内容	<p>【整備内容】</p> <p>「暮らしの中の囲碁美術」をテーマとして、江戸、明治、大正、昭和、平成と、時代とともに人々の生活に関わってきた囲碁に関する資料（浮世絵・陶磁器・書籍等）が公開されている。日本の伝統文化でもある囲碁の伝承とともに、囲碁を通じた文化交流の促進、市民文化の向上を目的として整備した。</p> <p>長坂町の 2 階の議場を「北杜市囲碁美術館」として、リフォームし、平成 18 年に開館。江戸時代から現代に至る人々の囲碁に関する記録や浮世絵、陶磁器、書籍などの資料約 1700 点を収蔵し、それらを定期的に展示替えしながら公開している。館内には来館者が気軽に囲碁ができるよう自由対局室が用意されている。図書コーナーもあり、各レベル別の囲碁教本のほかに漫画「ヒカルの碁」も全巻取り揃えている。初心者や女性向けの囲碁教室も行われているので、囲碁に興味がある人や始めての人にはぴったりの場所である。</p> <p>ソフト面・ハード面の整備はやっていない。机の配置を変えたりしただけで、改修はしていない。自前で作業をしたので、費用はゼロである。しかしながら来館者は少ない状況にある。</p>		
			
	<p>【常設展示室】 （出展：北杜市ホームページ） https://www.city.hokuto.yamanashi.jp/docs/1919.html</p>		

【議場の利活用】

番号	2	自治体名	静岡県静岡市
合併自治体名	静岡市、清水市、蒲原町（編入）、由比町（編入）		
市の特徴	<p>【面積】 1,411.9km² 【人口】 682,619 人（2022 年 12 月 1 日） 【人口密度】 483 人/km²</p> <p>東京と名古屋の太平洋ベルト地帯上のほぼ中間に位置し、静岡県の東西間でもほぼ中央にある。葵区、駿河区、清水区の 3 区で構成されていて、範囲は駿河湾から日本平、静岡平野や清水平野を経て赤石山脈（南アルプス）の県境まで南北に繋がる。気候は非常に温暖穏やかで雪が殆ど降らず、一年を通して晴れ間が広がる。旧静岡市と旧清水市の新設合併により、2003 年（平成 15 年）4 月 1 日に設置され、2005 年（平成 17 年）4 月 1 日に全国 14 番目の政令指定都市に移行した。市制施行日は全国の政令指定都市の中で最も新しい。人口・面積ともに県内では浜松市に次ぎ第 2 位。ピーク時の人口は約 74 万人であったが、近年の急激な人口減少により、2020 年現在、政令指定都市の中で人口は最も少ない</p>		
利活用庁舎	清水庁舎 3 階の議場→「清水ふれあいホール」		
キーワード	スポーツ、文化、青少年育成活動等の地域振興、コミュニティの醸成		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>ホールは、かつての清水庁舎 3 階の議場を地域において自治、スポーツ、文化、青少年育成活動等の地域振興やコミュニティの醸成につながる事業を行う団体・グループ等と市役所の各課等が協働して実施する事業（講演会、研修会等）に利用するため、「清水ふれあいホール」として整備し、平成 18 年 4 月よりオープンされている。マイク、プロジェクター、CD・DVD 等プレーヤーを備品して整備している。延床面積約 380 m²程度で、定員は 236 人である。</p> <p>利用者は多い時で 1,000 人／月程度で、少ない時で 200 人／月程度である。</p>			
			
【ホール】			
<p>（出展：静岡市ホームページ）</p> <p>https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_005440.html</p>			

【議場の利活用】

番号	3	自治体名	新潟県南魚沼市
合併自治体名	南魚沼郡六日町、南魚沼郡大和町、南魚沼郡塩沢町		
市の特徴	【面積】 584.55km ² 【人口】 53,498人（2022年12月1日） 【人口密度】 91.5人/km ²		
利活用庁舎	塩沢町議場→「ヤマト運輸（株）東京支社のコールセンター」		
キーワード	FM、民間利用、産業、雇用の創出		
内容			


【整備内容】

平成16年11月1日、南魚沼郡六日町と大和町が合併し、市制施行。その後、平成17年10月1日、南魚沼郡塩沢町を編入合併して新生「南魚沼市」誕生。ヤマト運輸（株）東京支社管内の7ヶ所のコールセンターでは、顧客からの受電対応が追いつかず、新たなコールセンターの進出地を検討していた。平成19年4月の改正地方自治法の施行により、庁舎の一部貸付が長期的・安定的に行えるようになった。また、塩沢地区への光ケーブルサービスが導入され、コールセンター業務のシステムに対応できる環境が調っていた。


塩沢町庁舎は、平成5年に竣工された延床面積1,700㎡の耐雪型RC造3階建の建物で、その3階部分が旧議場になっていた。「※日本気象協会によると当該地域において屋根に積もる雪の平均的な密度は300kg/㎡以上といわれている。」仮にこの建物の屋上が全てRC造である場合、約610tの重量に耐えられる。この地域でもこれだけの設計積雪量を持った民間施設はあまり無いことから、進出企業にとっても信頼のいける建物構造になっていた。議場の再利用だけでなく、計100人の雇用創出にもつながっている



【フロアの平面利用】

番号	4	自治体名	香川県まんのう町
合併自治体名	仲多度郡琴南町、仲南町、満濃町		
市の特徴	<p>【面積】 194.45km² 【人口】 16,736人（2022年12月1日） 【人口密度】 86.1人/km²</p> <p>香川県の最高峰である竜王山西峰（標高1060m）と第二の高峰である大川山（標高1043m）があり、それらが属する讃岐山脈の北麓に位置し、香川県西南部の丘陵に広がっている。町の中央には日本最大の灌漑用のため池・満濃池に代表される大小900余りのため池を有し、町の南北を土器川（一級河川）が流れる。土器川に沿うように国道438号があり三頭トンネルで徳島県に通ずる交通の一窓口となっている。西側には西讃地方へ流れる財田川がある。</p>		
利活用庁舎	琴南町役場出納室→郵便局に有償貸与・歯科・内科-診療所		
キーワード	FM、民間利用、コロナ、医療		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>合併により余裕スペースとなった旧庁舎一部をATMブースや事務スペースなどとして郵便局に有償貸与した。元々、郵便局は支所近くにあったが、事務所の賃貸契約期間が満了となるタイミングで支所の一部が空室になったため、移転する運びとなった。支所と郵便局を集約したことで、利便性が向上した。また同階に歯科と内科の診療所を配置した。</p> <p><利点></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 同フロアに市民サービス担当部署がある。 (2) 出納室として使用していたため金庫が設置されており、適した場所だった。 (3) 既存の郵便局より駐車場が広くなり、町民は一ヶ所で役場用務と郵便用務が行えるなど利便性が向上した。 			
			
【琴南町支所 1階配置図】			
(出展：まんのう市ホームページ)			
https://www.town.manno.lg.jp//themes/chosei@main/yakuba/docs/mitorizu_2.pdf			

【旧庁舎全体利用】

番号	5	自治体名	千葉県野田市
合併自治体名	野田市、関宿町		
市の特徴	<p>【面積】 103.55km² 【人口】 152,146人（2022年12月1日） 【人口密度】 1,469人/km²</p> <p>千葉県最北端の市であり、北緯36度線が通る。県庁所在地である千葉市から約40キロメートルの距離である。東京都の都心から30-40キロメートル圏内である。都市雇用圏における東京都市圏に含まれ、東京都特別区部への通勤率は13.2%（平成27年国勢調査）。</p> <p>関東平野のほぼ中央に位置しており、市の中心部は下総台地、市の東を利根川、西を江戸川、南を利根運河によって、三方を河川に囲まれている。利根川を挟んで対岸が茨城県、江戸川をはさんで対岸が埼玉県である。</p>		
利活用庁舎	旧関宿町庁舎→複合施設「いちいのホール」		
キーワード	社会教育、生涯学習、子育て支援、地域活性化		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>平成15年6月6日に、野田市と関宿町は合併し、新「野田市」が誕生した。</p> <p>平成16年4月1日、旧関宿町役場庁舎を支所・図書館・コミュニティ会館・関根名人記念館などの入る複合施設「いちいのホール」としてオープンした。</p> <p>配置施設は以下の通り</p> <p>(1) 1階支所機能 (2) 2階、3階図書館機能 (3) 4階劇場型小ホール設置のコミュニティ会館、子ども相談室等 (4) 5階地元出身の将棋名人の記念館、商工会</p> <p>③具体的な利用内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動（サークル活動、団体活動） ・市役所の公用利用（期日前投票所等） ・市内音楽教室の発表会等 <p>④利用者数 16,811名、利用件数 1,221件（年間）</p>			
<p>（出展：野田市ホームページ）</p> <p>https://www.city.noda.chiba.jp/shisetsu/shiyakusho/1001045.html</p>			

【旧庁舎全体利用】

番号	6	自治体名	東京都立川市
合併自治体名	—		
市の特徴	<p>【面積】 24.36km² 【人口】 185,483人（2023年1月1日） 【人口密度】 7,614人/km²</p> <p>東京都の島嶼部を除く地域の中央よりやや西側の、多摩川中流左岸武蔵野台地上に位置する。市域のほとんどは平地であるが、南部の多摩川沿いに立川崖線、北東端に国分寺崖線が見られる。標高は北部から南部へゆるやかに低くなっており、南北に残堀川が流れ、市北部の一部（0.7km²）のみ玉川上水を分水嶺とし荒川水系域となっている。</p>		
利活用庁舎	旧立川市庁舎		
キーワード	子育て、教育、文化芸術活動、市民活動		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>平成22年5月、立川市庁舎が新築され、立川駅の北に位置する、立川市泉町に移転した。新庁舎の移転後、老朽化していた旧庁舎は、耐震工事を施し、平成24年12月に「子ども未来センター」として新しく生まれ変わった。子ども未来センターは、子育て、教育、文化芸術活動、市民活動を支援するとともに、イベントの実施などを通じて地域のにぎわいを創出することを目的とする複合施設で、指定管理者制度を活用して管理・運営している。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども総合相談受付 (2) 子育てひろば (3) 一時預かり（登録制・有料）。 (4) ファミリー・サポート・センター (5) 発達相談・就学相談・教育相談 (6) 錦連絡所（一部の行政機能を行っている。） (7) 立川まんがぱーく、スタジオ等 <p style="text-align: center;">（出展：立川市ホームページ及び子ども未来センターホームページ）</p>			
			
			
https://t-mirai.com/			

【旧庁舎全体利用】

番号	7	自治体名	宮城県石巻市
合併自治体名	桃生町、河南町、河北町、北上町、雄勝町、牡鹿町、石巻市		
市の特徴	<p>【面積】 554.58km² 【人口】 135,974人（2022年12月1日） 【人口密度】 245人/km²</p> <p>宮城県北東部にある市である。仙台市に次いで県内第二の人口を擁する。2005年（平成17年）の広域合併により、市域はそれまでの旧北上川下流域から、牡鹿郡女川町を除く三陸海岸南端、牡鹿半島一帯まで広がった。市のほぼ中央を旧北上川が南北に縦断し、概ね旧北上川を境に土地利用や第一次産業の構造に変化が見られる。市街地は主に旧北上川河口に広がっており、旧北上川の中州である中瀬地区から石巻駅にかけての地域が中心市街地である。</p>		
利活用庁舎	石巻市役所庁舎（現行庁舎）へ→スーパーマーケット（一階部）		
キーワード	地域活性化、産業振興、雇用創出		

内容

【整備内容】

「旧さくら野百貨店石巻店」の建物が寄贈され、市議会および庁内で他候補地を含め検討し、その結果、今後に与える財政的負担が最小限であること、石巻駅前が公共交通機関の結節点にあり、市役所庁舎としての利便性と「市民交流の場」としての利便性が良いことなどから、新庁舎として利活用することとなった。

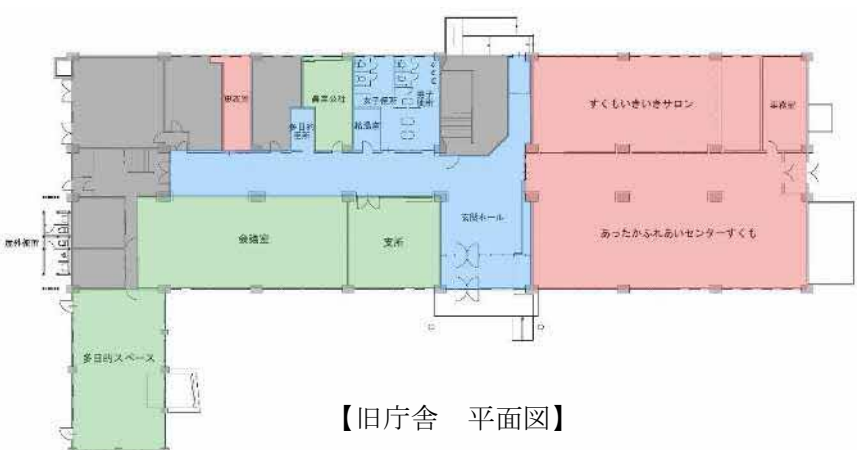
無償譲渡により取得した庁舎建物の1階部分を商業スペースへと転用し、スーパーマーケットへ有償貸与。他の部分は改装後に庁舎として利用予定であり、中心市街地活性化につなげた。

民間への有償貸与により、年額1,200万円の歳入増とともに、石巻駅周辺の活性化に寄与する。





https://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10151000/1000/4392/200809_02-03.pdf

【旧庁舎全体利用】

番号	8	自治体名	高知県宿毛市
合併自治体名	—		
市の特徴	<p>【面積】 286.20 km² 【人口】 18,286 人（2022 年 12 月 1 日） 【人口密度】 63.9 人/km²</p> <p>貝塚などの遺跡も多く、早くから港を中心に開けた地域で、豊かな歴史と文化を築くなかで、早稲田大学の前身である東京専門学校の設定に中心的役割を果たした小野梓氏や株式会社小松製作所（通称：コマツ）を設立した竹内明太郎氏、外相を経て五度内閣を組織し、戦後の日本復興に尽力した吉田茂氏などの人材を輩出している。</p> <p>四国の西南端に位置し、温暖な気候と豊かな自然に囲まれ、豊後水道に面した宿毛湾は、魚のゆりかご・天然の養殖場、と言われるほど魚種の豊富な海であり、新鮮な魚介類が提供できる環境にもある。</p>		
利活用庁舎	旧庁舎→支所、福祉施設、多目的スペース		
キーワード	地域活性化、福祉、子育て支援		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>市役所を宿毛市希望ヶ丘に新築移転し、桜町にある旧庁舎 1 階部分を、市内にある各支所と同様の機能を持った「支所」と、「すくもいきいきサロン」「あったかふれあいセンター」のような福祉施設、そして市民利用の「会議室」や「多目的スペース」といった機能を整備。</p>			
			
【旧庁舎 平面図】			
(出展：宿毛市ホームページ) https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-11/30044.html			

【計画中の自治体】

番号	9	自治体名	新潟県魚沼市
合併自治体名	北魚沼郡堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村		
市の特徴	<p>【面積】 946.76 km²</p> <p>【人口】 32,986 人（2022 年 12 月 1 日）</p> <p>【人口密度】 34.8 人/km²</p> <p>魚沼市（うおぬまし）は、新潟県中越地方の南東部に位置する市。周囲を山に囲まれた盆地で、冬期は市街地でも最深積雪の平年値が 2 m を超える国内有数の豪雪地帯である（気象・環境参照）。上越新幹線で新潟駅から 40 分、東京駅から 90 分の位置にあり[1]、冬季のスキーは重要な産業で、また南魚沼市、小千谷市、十日町市共々、魚沼地方は稲作が盛んで、魚沼産コシヒカリの産地の一つとしても知られる。</p>		
利活用庁舎	旧堀之内庁舎→事務所ビル 旧広神庁舎→複合施設		
キーワード	地域活性化、福祉、子育て支援		
内容			
<p>【整備内容】</p> <p>旧堀之内庁舎</p> <p>3 階 ケーブルテレビ設備、エフエム魚沼(株)に貸付け</p> <p>2 階 堀之内商工会と貸付協議中</p> <p>1 階 令和 6 年度に、物産館開設</p> <p>旧広神庁舎</p> <p>3 階 教育センター （旧堀之内庁舎から学習指導センター、適応支援班（フラワールーム）を移転）</p> <p>2 階 コワーキングスペース （一社）魚沼ものづくり振興協議会・魚沼市土地改良区、（一社）魚沼市シルバー人センター、魚沼市職員組合に貸付け</p> <p>1 階 令和 6 年度に、文化財等展示・保管スペースを整備</p>			
			
【旧堀之内庁舎】		【広神庁舎】	
（出展：魚沼市ホームページ）			
https://www.city.uonuma.niigata.jp/docs/2021121500048/			

